Pioneer

取扱説明書

お取り扱いについてお困りのとき

http://pioneer.jp/support/

カスタマーサポートセンター

フリーコール **0120-944-222**

一般電話 **03-5496-2986**

受付時間

月曜～金曜
9:30～18:00
土曜・日曜・祝日
9:30～12:00、13:00～17:00
(弊社休業日を除きます。)

※ フリーコールは、携帯電話・PHSからはご利用になれません。一般電話は、携帯電話・PHSからご利用可能ですが、通話料がかかります。

DOLBY TRUE HD

dts-HD Master Audio

5.1 ch サラウンドシステム

HTP-LX70

安全上のご注意

●安全にお使いいただくために、必ずお守りください。

●ご使用の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△ 記号は注意(警告を含む)しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。

⃠ 記号は禁止(やってはいけないこと)を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止) が描かれています。

● 記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け)が描かれています。

⚠ 警告

異常時の処置

- 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。
- 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

設置

- 電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 電源コードの上に重い物をのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。また、電源コードが引っ張られないようにしてください。コードが傷ついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気づかず、重い物をのせてしまうことがあります。
- 放熱をよくするため、他の機器や壁等から間隔をとり、ラックに入れる場合はすき間をあけてください。また、次のような使い方で通風孔をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

→あおむけや横倒し、逆さまにする。
→押し入れなど、風通しの悪い狭いところに押し込む。
→じゅうたんやふとんの上に置く。
→テーブルクロスなどをかける。

- **着脱式の電源コード(インレットタイプ)が付属している場合のご注意：**
付属の電源コードはこの機器のみで使用することを目的とした専用部品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災･感電の原因となることがあります。また電源コードは本製品に付属のもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流容量不足による発熱から火災・感電の原因となることがあります。

使用環境

- この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。
- 風呂場、シャワー室等では使用しないでください。火災･感電の原因となります。
- 表示された電源電圧（交流 100 ボルト 50 Hz/60 Hz）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- この機器を使用できるのは日本国内のみです。また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。

使用方法

- 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、内部に入った場合、火災・感電の原因となります。
- ぬれた手で（電源）プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 本機の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- 本機のカバーを外したり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災･感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。
- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災･感電の原因となります。コードが傷んだら（芯線の露出、断線など)、販売店に交換をご依頼ください。
- 雷が鳴り出したらアンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

⚠ 注意

設置

- 電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。
- 電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。
- ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- 本機を調理台や加湿器のそばなど油煙、湿気あるいはほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

- テレビ、オーディオ機器、スピーカー等に機器を接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。
- 本機の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。
- 本機の上にテレビを置かないでください。放熱や通風が妨げられて、火災や故障の原因となることがあります。(取扱説明書でテレビの設置を認めている機器は除きます。)
- 電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

- 移動させる場合は、電源スイッチを切り必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから、行ってください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。
- 本機の上にテレビやオーディオ機器を載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。重い場合は、持ち運びは２人以上で行ってください。
- 窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。

使用方法

- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。
- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、壊れたりしてけがの原因になることがあります。
- 旅行などで長期間ご使用にならない時は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

電池

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- 電池を機器内に挿入する場合、極性表示(プラス(＋)マイナス(－)の向き)に注意し、表示どおりに入れてください。間違えると電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- 長時間使用しない時は、電池を取り出しておいてください。電池から液が漏れて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液が漏れた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また万一、漏れた液が身体についた時は、水でよく洗い流してください。
- 電池は加熱したり分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となることがあります。

保守・点検

- 5 年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。
- お手入れの際は安全のために電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

- 電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ（遮断装置）を抜く必要があります。万一の事故に備え、本機を電源コンセントの近くに設置し、電源プラグ（遮断装置）に容易に手が届くように設置してください。

- 機器本体のSTANDBY/ONボタンで電源を切っても、電源の供給は停止しません。電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ（遮断装置）を抜く必要があります。旅行などで長期間、この製品をご使用にならないときには安全のため必ず電源プラグ（遮断装置）をコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

注意

- 表示部が消えていても電源の供給は停止しません。電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ（遮断装置）を抜く必要があります。旅行などで長期間、この製品をご使用にならないときには安全のため必ず電源プラグ（遮断装置）をコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

禁止

- 付属の電源コードはこの機器のみで使用することを目的とした専用部品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となることがあります。また電源コードは本製品に付属のもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流容量不足による発熱から火災・感電の原因となることがあります。

本機の放熱について

- 本機を設置する場合には、壁から 10 cm 以上の間隔をあけてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して設置してください。ラックなどに入れるときには、本機の天面から10 cm以上、背面から10 cm以上、側面から10 cm以上のすき間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

もくじ

1. はじめに

2. スピーカーを設置する

3. 接続する

4. 各部の名称

5. 準備する

6. サラウンド再生

7. ラジオを聞く

8. 他機器の接続

9. いろいろな機能を使う

10. その他

第１章：
はじめに

本機の特長

1. 上級アンプに匹敵するレシーバー機能を搭載

本機はFM/AMラジオはもちろんのこと、ドルビー※1デジタルプラス、ドルビー TrueHD、DTS※2、DTS-HD、DTS-EXPRESS、MPEG-2 AAC などの上級アンプに匹敵する多彩なデコーダーを搭載しており、本格的な臨場感でサラウンドを楽しめます。
また、WMA※3、MP3、MPEG-4 AAC などのステレオ音声に対して、圧縮･収録時に失われた音楽の抑揚感やきめ細かさを復元して高音質化する「サウンドレトリバー」機能も搭載しています。

2. 常識を覆す多面体スピーカーと、大迫力のダブルドライブサブウーファー

正12面体の無指向性スピーカーの考え方を基本にするDODECテクノロジーを使った新開発サテライトスピーカーを採用し、映画のワンシーンやコンサート会場の中にいるかのような、圧倒的な臨場感を再現します。また、大迫力で力強い重低音が楽しめる18 cmウーファーユニットを2機搭載しています。さらに、従来のホームシアターシステムではテレビの上や下に置くしかなかったセンタースピーカーを、本機では左右のフロントスピーカーに一体化。テレビ周りが雑然としたり設置場所に困るようなことを解消し、すっきりとしたホームシアターの構築が可能です。

3. HDMI バージョン 1.3a 搭載

映像と音声をデジタル伝送できるHDMI端子を搭載し、多彩なデジタル音声フォーマットに対応。また、HDMIコントロール機能も搭載し、パイオニア製HDMI機器との連動動作も実現しました。

4. パイオニア製 AV 機器を一括操作できる多機能液晶タッチパネルリモコン

本機に付属の液晶タッチパネルリモコンは、本機のほかにパイオニア製プラズマテレビやブルーレイディスクプレーヤー、DVDプレーヤーなども操作が可能。これらの機器を接続した本機の入力の切り換えもあわせて行えるので、AVシステムを1つのリモコンで操作することができます。

5. 快適なリスニング環境を実現する、自動音場補正システム「Advanced MCACC」

本機は自動音場補正システム「Advanced MCACC(Multi-Channel Acoustic Calibration System)」を搭載し、各スピーカーの音量、距離、音質などの設定に加え、お部屋の残響特性を考慮した補正や、リビングルームなどで置きやすい定在波の制御なども行います。最短4分半程度のわずかな時間で、複雑で難しいとされるサラウンド環境の設定が簡単に行えます。

6. 環境にやさしい設計製品

5.1チャンネルレシーバー機能を搭載したサブウーファー部は、スタンバイ中の消費電力を0.27 Wに抑え、環境に配慮した設計をしています。

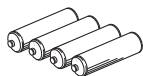
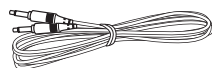
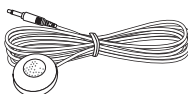
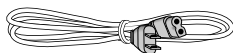
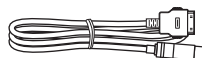
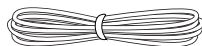
※1　ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic、ダブルD記号及びAACロゴはドルビーラボラトリーズの商標です。

※2　「DTS」および「DTS-ES｜Neo:6」はDTS社の登録商標です。「96/24」、「DTS-HD EXPRESS」および「DTS-HD Master Audio」はDTS社の商標です。

※3　WMA(Windows Media® Audio)は、Microsoft® 社がWindows® Millennium Edition 以降のOSに標準搭載している高音質な音楽圧縮フォーマットです。
Microsoft、Windows Millennium Edition および Windows Mediaは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

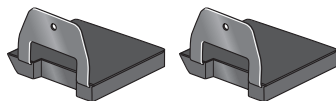
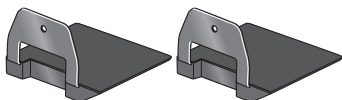
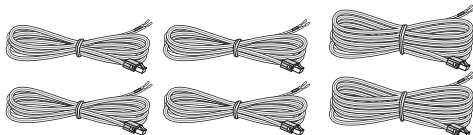
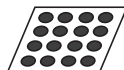
付属品の確認

アクセサリーボックス部

- リモコン ×1
- 単3形アルカリ乾電池 (AA/LR6) ×4
- 保証書
- 取扱説明書
- ディスプレイユニット ×1
- ディスプレイケーブル（3 m）×1
- コントロールケーブル（3 m）×1
- MCACCセットアップ用マイク ×1
- 電源コード（1.5 m）×1
- iPodケーブル（1.5 m）×1
- FM簡易アンテナ ×1
- AMループアンテナ ×1

(図は組み立てた状態です)

- HDMIケーブル（3 m）×1
- 光デジタルケーブル（3 m）×1

サテライトスピーカー部

- フロント/センタースピーカー 左右各 ×1
- サラウンドスピーカー 左右各 ×1
- スピーカーベース
  フロント/センター右・サラウンド左用 ×2
  フロント/センター左・サラウンド右用 ×2
- スピーカーコード
  4 m/赤色（フロント右用）×1
  4 m/白色（フロント左用）×1
  4 m/紫色（センター右用）×1
  4 m/緑色（センター左用）×1
  10 m/灰色（サラウンド右用）×1
  10 m/青色（サラウンド左用）×1
- ネジ ×4
- 滑り止めパッド ×16

レシーバー サブウーファー部

- クリーニングクロス ×1

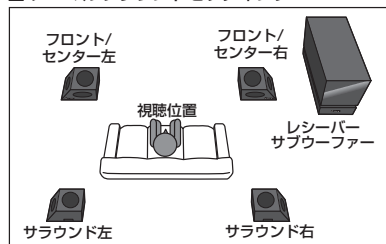
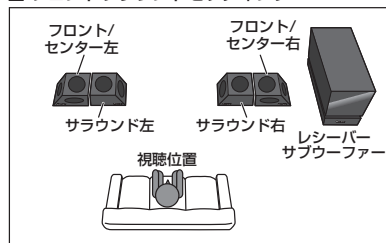
サラウンド再生を楽しむまで

本機で最適なサラウンド再生をお楽しみいただくためのステップは以下のとおりです。
スピーカーの設置と本機の接続をしてから、自動音場補正システム「MCACC」設定を行えば、お部屋の状態に合わせた最適なリスニング環境が簡単に整いますが、さらに音質を調整してお好みの音場を構築することも可能です。

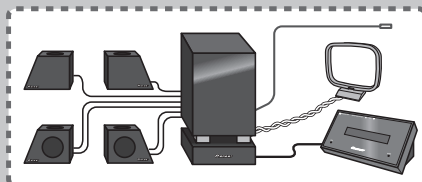
STEP 1

スピーカーを配置する ➡13ページ

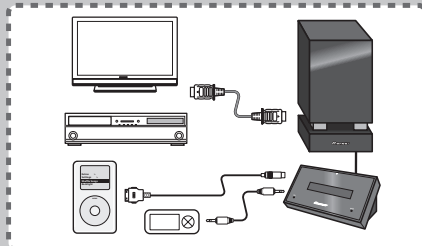
お好みやお部屋の環境に合わせて、スピーカーの設置方法を選んでください。

■ ノーマルサラウンドセッティング

■ フロントサラウンドセッティング

STEP 2

本機を接続する ➡20ページ

スピーカーやディスプレイユニット、アンテナを接続します。

テレビや他機器を接続する

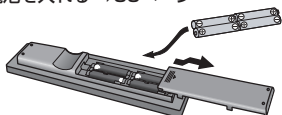
➡24、56ページ

お手持ちのテレビやブルーレイディスクプレーヤー、HDD/DVDレコーダーなどを本機に接続します。

● 上記は本機でサラウンド再生を楽しむまでの基本的な手順を示しています。ご使用の前に、本書を最後までよくお読みください。

STEP 3

リモコンの準備をする

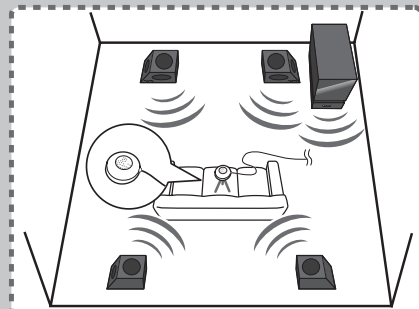
本機のリモコンで、お手持ちのテレビを操作できるようにします。リモコンの使い方も覚えましょう。

■ 電池を入れる ➡35ページ

■ テレビプリセット設定 ➡36ページ

■ リモコンの使い方 ➡37ページ

STEP 4

MCACC設定を行う ➡38ページ

お部屋の音響特性を高精度に測定し、最適なサラウンド設定を行います。4分半～6分の時間ですべて自動で行われます。

ホームシアターが完成！

本機のエフェクティブサウンド機能により、お部屋全体に広がる3D音場でサラウンドを楽しむことができます。

さらに・・・

本機にはシーンやお好みで選べる以下のリスニングモードが豊富に用意されています。（41ページ）
・ サラウンドモード
・ アドバンスドサラウンドモード
・ フロントサラウンド・アドバンスモード（フロントサラウンドセッティング時）

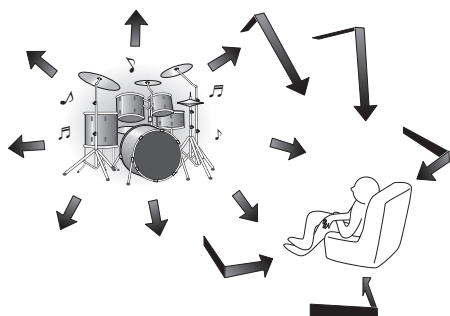
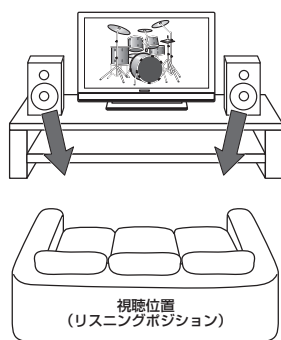
他にもさまざまなサウンド機能を選んだり、設定を行うことが可能です。
詳しくは、「サラウンド再生」（40ページ）をご覧ください。

第２章：
スピーカーを設置する

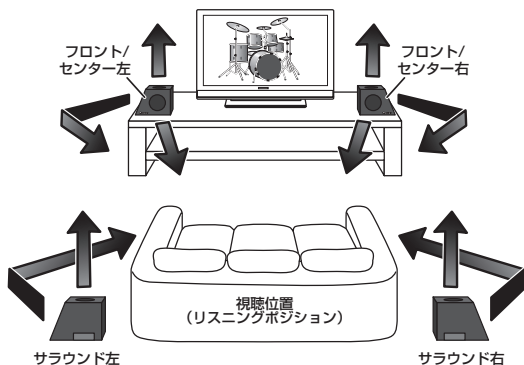
本機のスピーカーシステムの特長

音楽の生演奏を聴くとき、楽器からはいろいろな方向に音が広がり、その音が壁に反射したりしてさまざまな方向から視聴位置に伝わります。
しかし、従来のステレオオーディオシステムやホームシアターシステムのスピーカーは、音の指向性が前面方向のみのため、スピーカーの方向から音が出ている違和感のある音に感じてしまうことがありました。

生演奏の音の伝わりかた

視聴位置
（リスニングポジション）

従来のスピーカーの音の伝わりかた

本機のスピーカーシステムは、3次元の音場空間を可能にするDODEC（Dodecahedron：十二面体）テクノロジーに基づいた多面体スピーカーを採用。リビングなど部屋を立体的な音で満たし、まるでその場にいるような臨場感を実現します。
また、センタースピーカーを左右に分離させてフロントスピーカーと一体化するデュアルセンタースピーカー方式を採用することで、テレビの上や下にスピーカーを置く必要もなくなりました。
さらに、サラウンドスピーカーをフロント/センタースピーカーの横に配置するフロントサラウンドセッティングも可能です。
次のページをご覧になり、通常の「ノーマルサラウンドセッティング」と「フロントサラウンドセッティング」の2つの設置方法から、お客様のお好みやお部屋の環境に合わせてお選びください。

フロント/
センター左
フロント/
センター右
視聴位置
（リスニングポジション）
サラウンド左
サラウンド右

スピーカーを配置する

ホームシアターセッティング

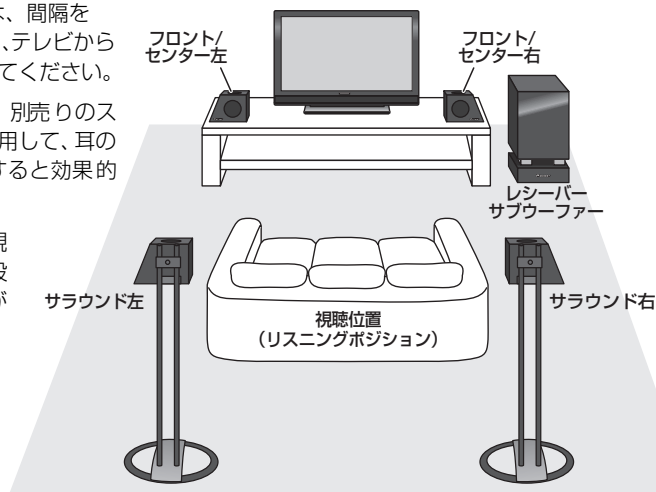
ノーマルサラウンドセッティング

視聴位置(リスニングポジション)の後方にサラウンドスピーカーを設置する本格的な5.1チャンネルサラウンドの設置方法です。このセッティングでは、「サラウンドモード」(42ページ)または「アドバンスドサラウンドモード」(43ページ)からお好きなリスニングモードを選んでお楽しみください。

◆ 左右に置いたスピーカーは、間隔を1.8 m～2.7 m程度離して､テレビから等距離になるように設置してください。

◆ サラウンドスピーカーは、別売りのスピーカースタンドなどを使用して､耳の高さからやや上方に設置すると効果的です。

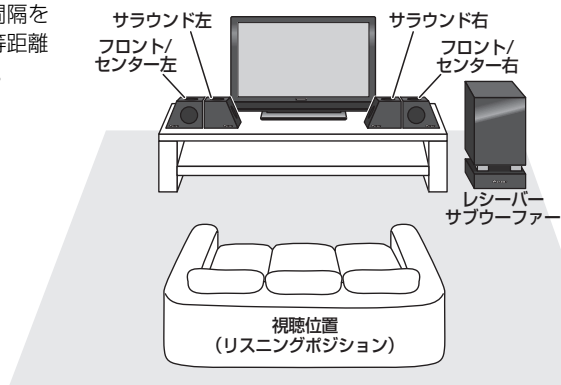
◆ サラウンドスピーカーを視聴位置から極端に離して設置すると､サラウンド効果が十分に発揮されません。

フロント/センター左
フロント/センター右
レシーバー
サブウーファー
サラウンド左
サラウンド右
視聴位置
(リスニングポジション)

※スピーカースタンドは別売りです。

フロントサラウンドセッティング

サラウンドスピーカーを前面の左右に置いて、お部屋をすっきりできる設置方法です。このセッティングでは、リスニングモードは「フロントサラウンド・アドバンスモード」(44ページ)を選んで、高いサラウンド効果をお楽しみください。

◆ 左右に置いたスピーカーは、間隔を1.5 m程度離して､テレビから等距離になるように設置してください。

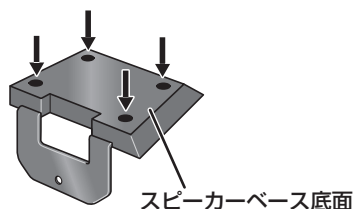
サラウンド左
サラウンド右
フロント/センター左
フロント/センター右
レシーバー
サブウーファー
視聴位置
(リスニングポジション)

スピーカーを準備する

本機のフロント/センターおよびサラウンドスピーカーには、付属のスピーカーベースを取り付けることができます。スピーカーベースを使用すると、重心が低くなり安定度が増すため、より引き締まった音質傾向になります。インテリアやお好みの音質に合わせてご使用ください。

- 別売りのスピーカースタンドにスピーカーを取り付ける場合（15 ページ参照）は、スピーカーベースと滑り止めパッドは使用しません。

スピーカーベースを使用する場合

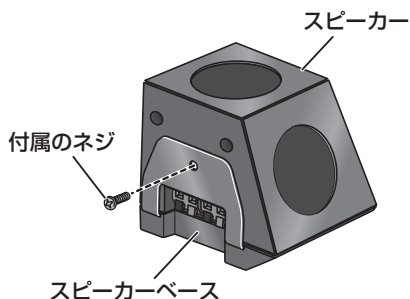
1. スピーカーベース底面に滑り止めパッドを貼る

スピーカーベースの底面４カ所に滑り止めパッドを貼り付けます。

スピーカーベース底面

2. スピーカーにスピーカーベースを取り付ける

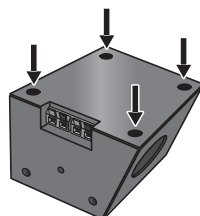
スピーカーベースの上にスピーカーを乗せて、付属のネジで固定します。

スピーカーベースは2種類あります。スピーカーを乗せたときに、ネジの位置が合う方のスピーカーベースを使用してください。（フロント/センター右とサラウンド左が同じ形です。また、フロント/センター左とサラウンド右が同じ形です。）

スピーカー
付属のネジ
スピーカーベース

スピーカーベースを使用しない場合

- **スピーカー底面に滑り止めパッドを貼る**

スピーカーの底面4カ所に滑り止めパッドを貼り付けます。

フロント/センターおよび
サラウンドスピーカーの底面

別売りのスピーカースタンドを使用する

本機のフロント/センターおよびサラウンドスピーカーは、別売りのスピーカースタンドCP-EU5に取り付けることができます。取り付ける際はCP-EU5の取扱説明書もあわせてご覧ください。

☑ **注意**

- 組み立て、取付不備、取付強度不足、誤使用、天災、および取り付け・取り外し作業などによる事故や損傷については、弊社では一切責任を負いません。

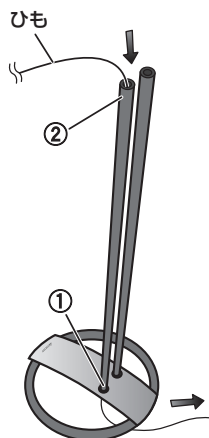
- パイプ内部はスピーカーコードが通りにくくなっています。以下の手順で、簡単にスピーカーコードをパイプに通すことができます。
- **はじめにCP-EU5取扱説明書の「組み立てかた」をご覧になり、手順3までスピーカースタンドを組み立ててください。ここでは手順3のあとから説明しています。**

4. パイプにひもを通す

市販のひも（タコ糸のような丈夫な糸、または細いひもなど）を、パイプの②から①に出るように、底面の反対側から通してください。

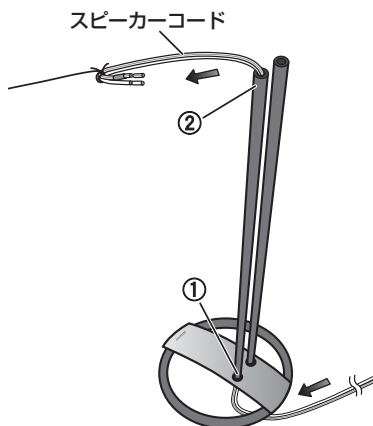
パイプに通したひもの底面側の先端を、スピーカーコードのカラーチューブが付いている方に結びます。

● ひもを結んだら、スピーカーコードの先端は下図のように曲げておいてください。

ひも
②
①

5. パイプにスピーカーコードを通す

ひもをゆっくりと引っぱって、スピーカーコードをパイプの①から②に出します。

● パイプの② からスピーカーコードを出すときは、無理に引っ張らないでください。通りにくいときは、コードの先端を曲げ直してください。

● スピーカーコードが通ったら、ひもは取り除いてください。

スピーカーコード
②
①

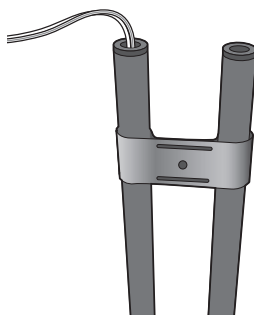
6. スピーカーにスピーカーコードを接続する

スピーカーコードのカラーチューブが付いている方を、スピーカーの背面に接続します。(20ページ)をご覧になり、正しく接続してください。

7. 取付金具をパイプにつける

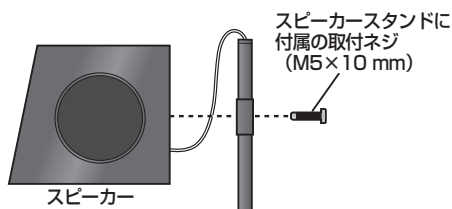
パイプをはさむように1カ所取り付けて、スピーカースタンドに付属の取付ネジをネジ穴に差し込みます。

取付金具はスピーカーを取り付けるまで、すべり落ちたり、外れないようにご注意ください。

- 取付金具は、前面側と背面側で形が異なりますので、使用する向きに注意してください。詳しくは CP-EU5 の取扱説明書をご覧ください。

8. スピーカーをスタンドに取り付ける

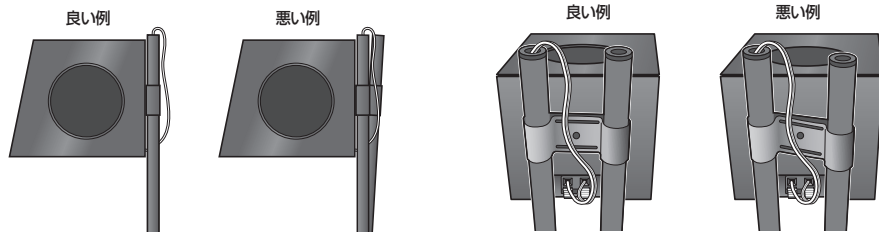
手順5でスピーカーコードを接続したスピーカーを、手順6で取付金具に通した取付ネジ（M5×10 mm）をスピーカーのネジ穴に合わせ、仮止めします。

スピーカーの高さをお好みに合わせて調整したら、ネジを増し締めしてください。

スピーカースタンドに付属の取付ネジ（M5×10 mm）

スピーカー

9. 2本のパイプを微調整する

真横および真上から見て、パイプがゆがまず水平になるように調整します。

良い例　悪い例　良い例　悪い例

☑ メモ

- 本機に取り付け可能なスピーカースタンドは変更になる場合があります。対応するスタンドは弊社ホームページでご確認ください。

スピーカーの設置場所について

● 組み合わせて使用するテレビやステレオシステムの近くの安定した場所を選んでください。

● 本機のスピーカーはテレビとの近接使用が可能ですが、まれに設置のしかたによっては色ムラを生じる場合があります。その場合は一度テレビの電源を切り、15〜30分後再びスイッチを入れてください。そのあとも色ムラが残るようでしたらスピーカーシステムをテレビから離してご使用ください。

● **次のような場所は避けてください**

· 直射日光のあたる所
· 湿気の多い所や風通しの悪い所
· 極端に暑い所や寒い所
· 振動のある所
· ほこりの多い所
· 油煙、蒸気、熱があたる所（台所など）

● **上に物をのせない**

本機の上に物をのせないでください。

● **熱を受けないように**

本機をアンプなど熱を発生する機器の近くに設置しないでください。

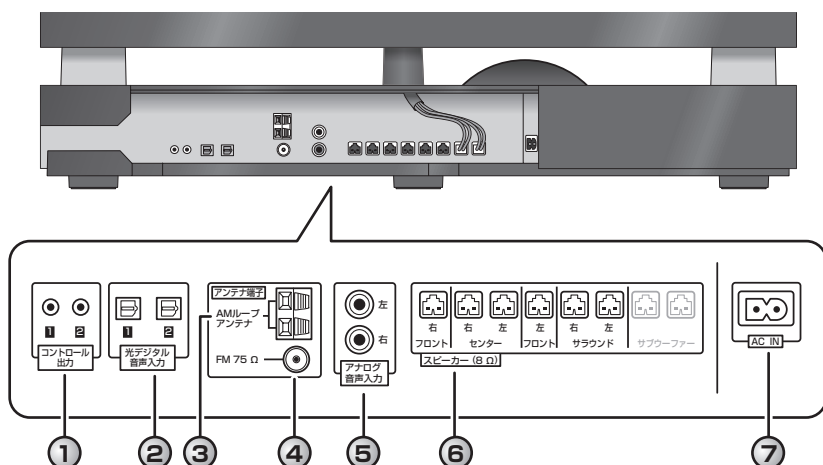
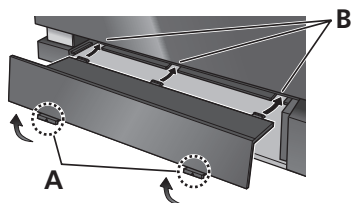
● **本機を使わないときは電源を切る**

テレビ放送の電波状態により、本機の電源を入れたままテレビをつけると画面にしま模様が出る場合がありますが、本機やテレビの故障ではありません。このような場合は本機の電源を切ってください。ラジオの音声の場合も同様にノイズが入ることがあります。

第３章：
接続する

接続部の名称

レシーバーサブウーファー

側面

- 側面端子にはカバーが付いています。
  A. 接続するときは、2カ所のツメを上げながらカバーを外します。
  B. 接続が終わったら、本体の3カ所の位置にカバーの突起部を合わせて、元に戻します。

1　コントロール出力端子
コントロール入力端子を持つパイオニア機器を接続します。

2　光デジタル音声入力端子
この入力に切り換えるには、Digital1またはDigital2を選択します。

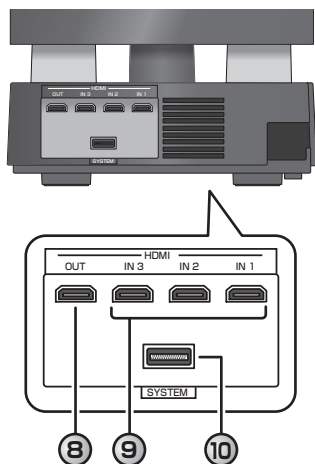
3　AMループアンテナ端子

4　FMアンテナ端子

5　アナログ音声入力端子
市販のオーディオコード（ピンプラグ付接続コード）を使用して、オーディオ機器を接続します。(56ページ)
この入力に切り換えるには、Analog を選択します。

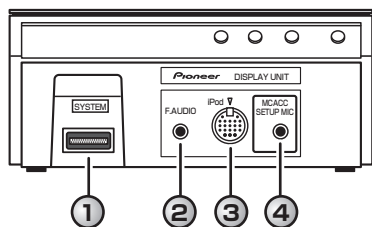
6　スピーカー端子
付属のスピーカーを接続します。(20ページ)

7　AC IN端子

背面

8 HDMI OUT端子
HDMI入力端子を持つテレビを接続します。

9 HDMI IN端子
HDMI出力端子を持つAV機器を接続して、本機で高音質に再生することができます。(59ページ)
この入力に切り換えるには、HDMI1 からHDMI3を選択します。

10 SYSTEM端子
付属のディスプレイユニットを接続します。(20ページ)

ディスプレイユニット

1 SYSTEM端子
レシーバーサブウーファーと接続します。

2 F.AUDIO端子
ステレオミニプラグケーブルを使用して、オーディオ機器を接続します。
ケーブルを接続すると、自動的に本機の入力がFront Audio Inに切り換わります。(56ページ)

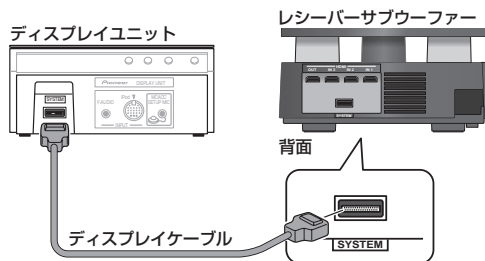
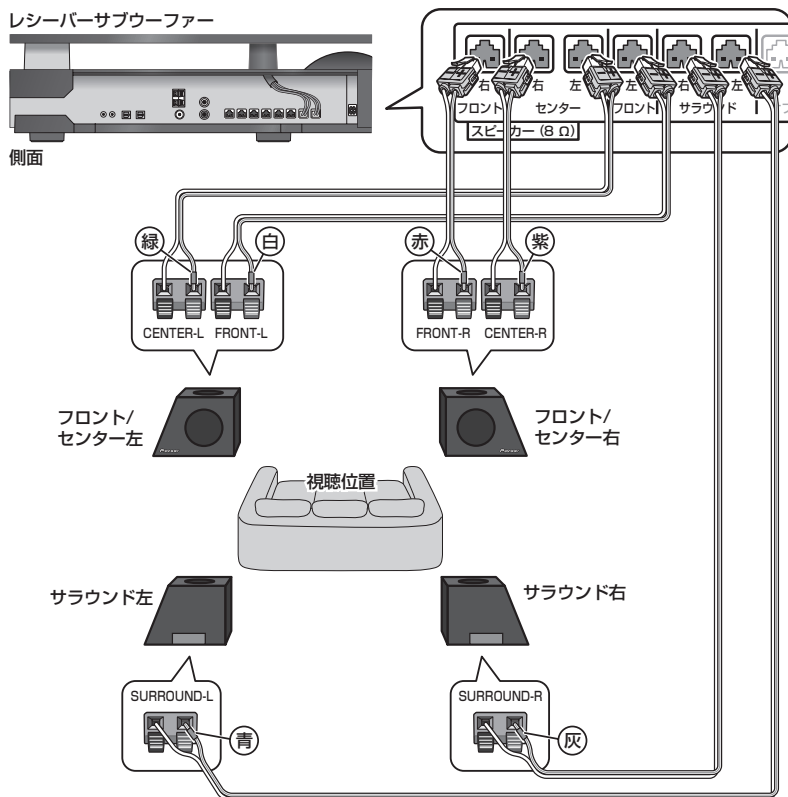
3 iPod端子
付属のiPodケーブルを使用して、iPodを接続します。接続すると、自動的に本機の入力がiPodに切り換わります。(57ページ)

4 MCACC SETUP MIC端子
付属のマイクを接続してMCACCの自動設定を行うときに使用します。(38ページ)

本機を接続する

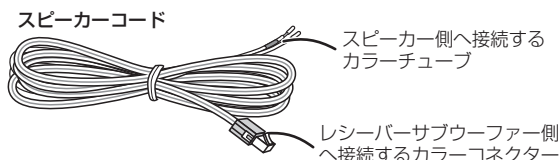
接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には、必ず電源コードを抜いてください。
また、電源コードはすべての接続が終わってから壁のコンセントに接続してください。

1. ディスプレイユニットを接続する

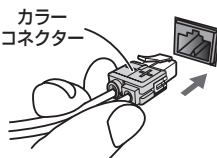
付属のディスプレイケーブルを使用して、レシーバーサブウーファー背面のSYSTEMコネクターと、ディスプレイユニットのSYSTEMコネクターを接続します。

2. スピーカーコードを接続する

スピーカーコードはカラーコネクターが付いている方をレシーバーサブウーファーに、カラーチューブが付いている方をスピーカーに接続します。

スピーカーコード

スピーカー側へ接続するカラーチューブ

レシーバーサブウーファー側へ接続するカラーコネクター

- **スピーカーコードのカラーコネクターを、レシーバーサブウーファーの同じ色のスピーカー端子に差し込みます。**

カラーコネクターの向きに注意して、カチッと音がするまでしっかりと差し込んでください。

カラーコネクター

- **スピーカーコードのカラーチューブの付いている方をスピーカーの背面端子に接続します。**

先端の被覆はねじりながら引き抜きます。

スピーカー背面ラベルの色表示と、スピーカーコードのカラーチューブの色が合っていることをよく確認して、スピーカー端子のツメを押しながら芯線を端子に差し込みます。
スピーカーコードのカラーチューブのある方を端子の⊕側（赤）、カラーチューブのない方を⊖側（黒）に接続してください。

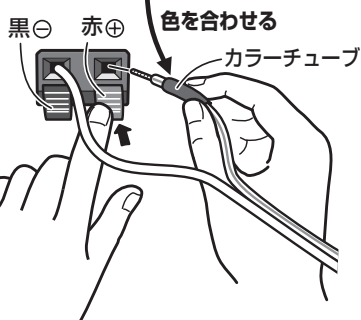
表示ラベル(例：サラウンド右の場合)

SURROUND–R

色表示

色を合わせる

黒⊖ 赤⊕

カラーチューブ

☑ メモ

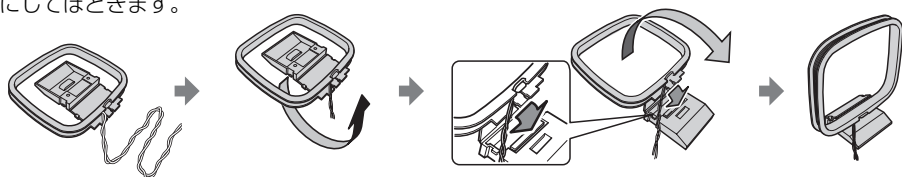
- 本機のスピーカーを他のアンプに接続しないでください。故障や火災の原因となることがあります。
- 付属のスピーカー以外のスピーカーは本機に接続しないでください。故障や火災の原因となることがあります。
- 端子に接続したあと、コードを軽く引いて、コードの先端が端子へ確実に接続されていることをご確認ください。接続が不完全ですと音がとぎれたり、雑音の出る原因となります。
- コードの芯線がはみ出して、芯線どうしが触れたりするとアンプ回路に過大な負荷が加わって音が出なくなったり、電源がオフになることがあります。
- レシーバーサブウーファーと接続したとき、スピーカーシステムの極性(⊕、⊖)を間違って接続すると、正常なステレオ効果やサラウンド効果を得ることができません。

3. AMループアンテナを組み立てる

① **コードがねじれて巻かれている部分まで**を、ねじれはそのままにしてほどきます。

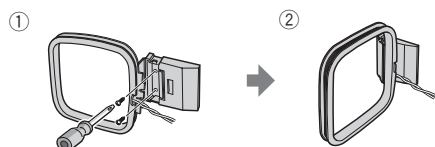
② 台を外側に出します。

③ 突起部を溝にはめます。

④ 完成

壁に取り付けるには...

市販のネジや画びょうなどを使って壁に取り付けてから組み立てます。

①

②

4. AMループアンテナとFM簡易アンテナを接続する

① AMループアンテナ接続端子のツメを押しながら、AMループアンテナのケーブルを端子に差し込みます。ケーブルを差し込んだらツメから指を離します。

② FM簡易アンテナは、中央のピンに差し込んでください。

レシーバーサブウーファー

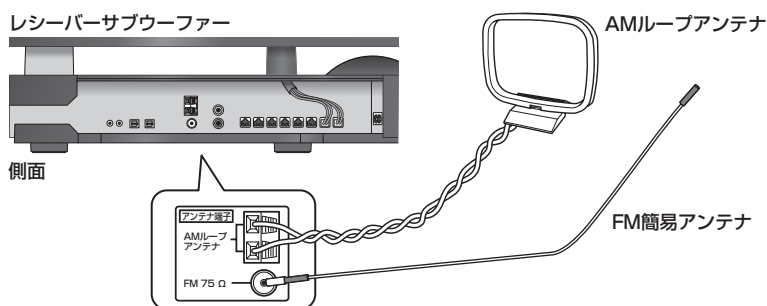
側面

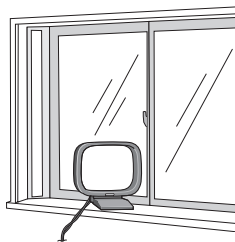
AMループアンテナ

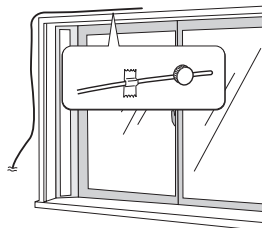
FM簡易アンテナ

アンテナ端子

AMループアンテナ

FM 75 Ω

AMループアンテナ：

- 平らな面に置き、受信状態の最も良い方向に向けてください。
- 壁などに取り付ける場合は、AM 放送の受信状態が最も良い方向を見つけ、取り付け位置を決めてください。
- できるだけ窓の近くに置くなど、場所や向きを変えて受信しやすい状態を探してください。

FM簡易アンテナ：

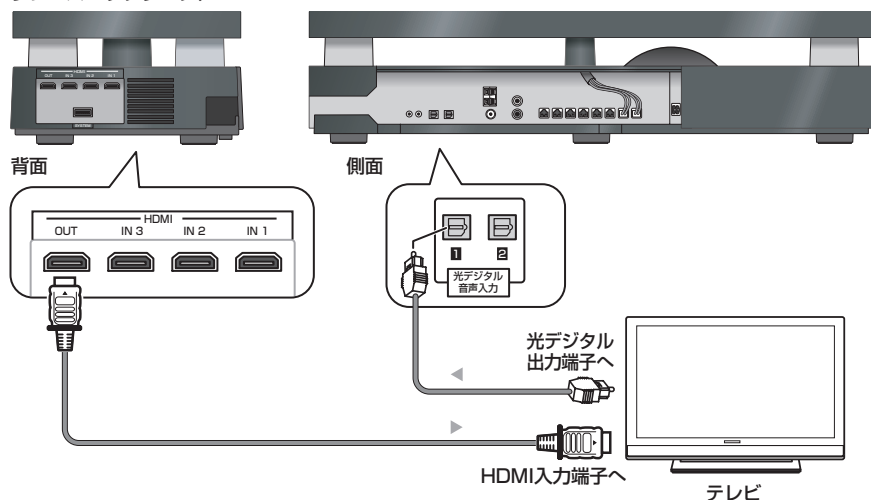
- 付属のFM 簡易アンテナは、たらしておいたり、丸めたままにしないで最も良い受信状態が得られるように、ピンと張ってください。
- 受信状態の良い方向が決まったら、画びょうやテープで貼り付けます。
- 付属のFM簡易アンテナは、FM放送を手軽に受信するためのものです。より良い受信のためには、市販の屋外アンテナの使用をお勧めします。(65ページ)

☑ メモ

- 付属のアンテナまたは「外部アンテナを接続する」(65ページ)で説明している以外のアンテナの接続は行わないでください。
- アンテナは本機やディスプレイユニット、または各接続ケーブルから離した場所に置いてください。
- アンテナは、本機やコード類から離して金属物と接触しない場所に置いてください。また、テレビ（プラズマテレビなど）やパソコンなどからもできるだけ離してください。ノイズの原因となります。
- 付属のアンテナでよく聞こえないときは、「FM放送の雑音を減らす」(53ページ)や「AM放送の雑音を減らす」(54ページ)を参照して操作するか、65ページを参照して外部アンテナを接続してください。

5. ブルーレイディスクプレーヤーやDVDプレーヤーなどの機器を接続する

HDMIケーブルを使用して、本機背面の**HDMI IN1～3**端子とブルーレイディスクプレーヤーやDVDプレーヤーのHDMI出力端子を接続します。詳しくは「HDMI対応機器を接続する」(59ページ)をご覧ください。
再生機器にHDMI出力端子がない場合は、光デジタルケーブルを使用して、本機側面の**光デジタル音声入力2**端子と接続します(57ページ)（またはアナログ音声コードを使用して、本機側面の**アナログ音声入力**端子と接続します(56ページ)）。映像信号は、再生機器とテレビを直接接続してください。接続については、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

6. テレビを接続する

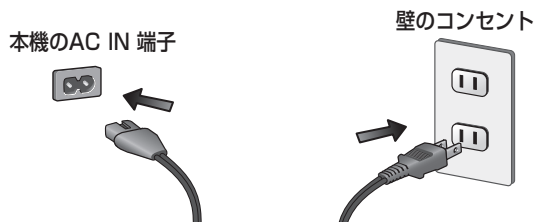
- **HDMI 入力端子のないテレビは、本機と接続することはできません。**

本機背面の**HDMI IN1～3**端子に接続した機器の映像をテレビに出力するには、HDMIケーブルを使用して、本機の**HDMI OUT**端子とテレビのHDMI入力端子を接続します。
テレビの音声を本機で聞くには、光デジタルケーブルを使用して、本機側面の**光デジタル音声入力1**端子とテレビの光デジタル音声出力端子と接続します。テレビに光デジタル音声出力端子がない場合は、アナログ音声コードを使用して、本機の**アナログ音声入力**端子に接続することもできます。

- HDMI コントロール機能に対応したパイオニア製プラズマテレビとHDMI ケーブルで接続する場合は、音声ケーブルの接続も行ってください。
- HDMI コントロール機能でプラズマテレビと連動動作させたり、本機のリモコンでプラズマテレビを操作するには、最初に TV 入力の設定を行ってください。詳しくは「パイオニアプラズマテレビまたはお手持ちのテレビの操作」(31 ページ) および「TV 入力の設定」(63 ページ) をご覧ください。

7. 電源コードを本体と壁のコンセントに差し込む

電源コードを本体のACインレット（AC IN）に差し込み、電源コードのプラグ部を壁のコンセントに接続します。テレビと接続している場合は、あとからテレビの電源コードをコンセントに接続してください。

本機のAC IN 端子

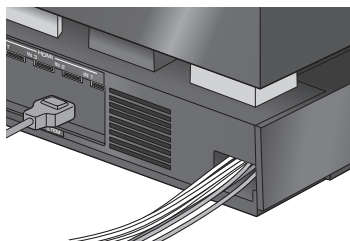
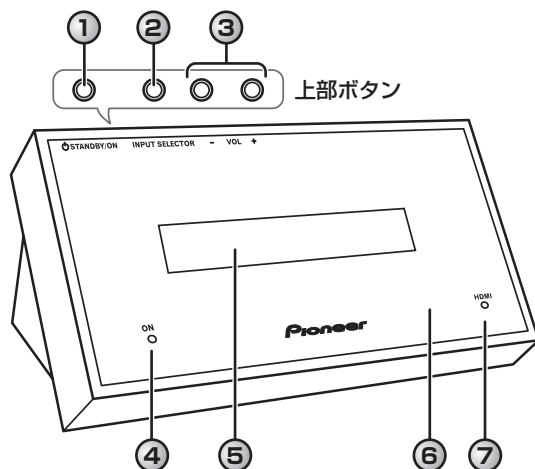
壁のコンセント

- 本機の電源コードをコンセントに接続すると、約 15 秒程度本機の初期動作を行い、この間はディスプレイユニットの HDMI インジケーターが点滅します。点滅が終わってから、本機の電源をオンにしてください。
- すべての接続が終わったら、ケーブル類を背面側に引き回して、本機側面のカバーを元に戻しておいてください。

第４章：
各部の名称

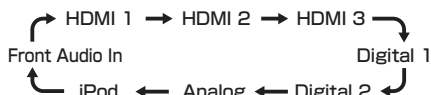
ディスプレイユニット

上部ボタン

STANDBY/ON INPUT SELECTOR – VOL +

ON HDMI

1 ⏻STANDBY/ONボタン
電源をオン/オフ(スタンバイモード)します。

2 INPUT SELECTORボタン
押すたびに、本機の入力が以下の順番で切り換わります。

HDMI 1 → HDMI 2 → HDMI 3 → Digital 1 → Digital 2 → Analog → iPod → Front Audio In → HDMI 1

3 VOL＋/－ボタン
音量を調節します。

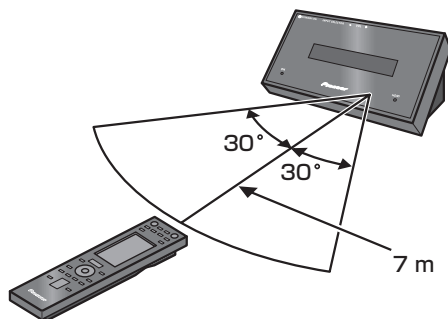
4 （電源）ONインジケーター（青）

5 表示窓

6 リモコン受光部

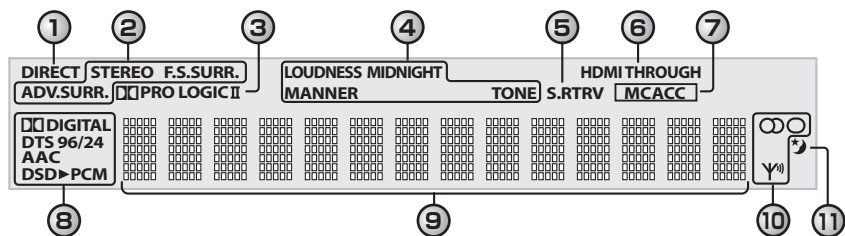
7 HDMIインジケーター（赤）
HDMI(HDCP)規格に対応した機器と接続しているときに点灯します。
また、本機の電源コードをコンセントに接続した直後の初期動作を行っている間に点滅します。

- リモコンは、リモコン受光部から約7 m、左右30°以内の距離から操作してください。

30°
30°
7 m

☑ **メモ**

- 直射日光や蛍光灯の強い光が直接リモコン受光部に当たると、リモコン操作できないことがあります。そのようなときは、設置場所を変えるか、蛍光灯から離してください。

表示部

1 DIRECT
DIRECT STEREO F.S.SURR. ADV.SURR. ⅅⅅPRO LOGICⅡ LOUDNESS MIDNIGHT MANNER TONE S.RTRV HDMI THROUGH MCACC ⅅⅅDIGITAL DTS 96/24 AAC DSD►PCM

1 DIRECT

ダイレクトサウンドを選択しているとき（エフェクティブサウンドがオフのとき）に点灯します。(41ページ)

2 STEREO

ステレオモードを選択しているときや、オートモードでステレオ音声を再生しているときに点灯します。(42ページ)

F.S.SURR.

フロントサラウンド・アドバンスモードを選択しているときに点灯します。(44ページ)

ADV.SURR.

アドバンスドサラウンドモードを選択しているときに点灯します。(43ページ)

3 ⅅⅅPRO LOGICII

ドルビープロロジックII処理が行われているときに点灯します。(42ページ)

4 サウンドインジケーター

ミッドナイト/ラウドネス/マナーモードまたはトーンコントロール機能のいずれかが選択されているときに点灯します。

5 S.RTRV

サウンドレトリバー機能が有効なときに点灯します。(45ページ)

6 HDMI THROUGH

HDMI設定がThroughに設定されているときに点灯します。(60ページ)

7 MCACC

MCACCエフェクト機能がオンの時に点灯します。(46ページ)
また、MCACCの自動設定中に点滅します。(38ページ)

8 ⅅⅅDIGITAL

ドルビーデジタル信号を再生しているときに点灯します。

DTS

DTS信号を再生しているときに点灯します。

DTS 96/24

DTS 96/24処理で再生してるときに点灯します。

AAC

MPEG-2 AAC信号を再生しているときに点灯します。

DSD►PCM

SACD再生時に点灯します。（DSDは常にPCMに変換して出力されます。）

PCM

PCM信号を再生しているときに点灯します。

9 キャラクター表示部

操作中の情報やリスニングモードを表示します。

10

FM/AM放送受信時に点灯します。

FM放送の受信設定をモノラルに設定しているときに点灯します。(53ページ)

FM放送でステレオ受信をしているときに点灯します。

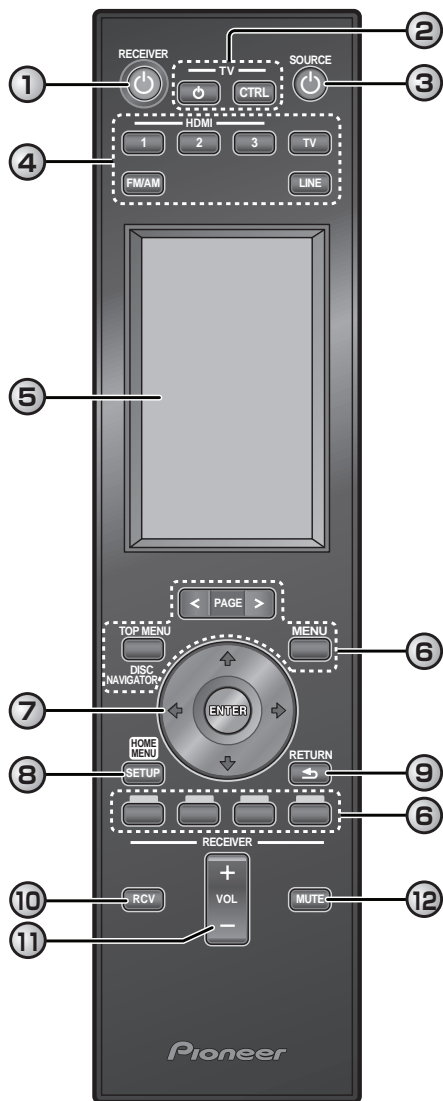
11

スリープタイマー設定時に点灯します。(66ページ)

リモコン

● リモコンの詳しい操作方法については、「リモコンの使い方」(37ページ)をご覧ください。

レシーバーサブウーファーの操作

ここではレシーバーサブウーファーの操作を説明していますが、入力を切り換えて他機器の操作をすることもできます。

1 ⏻RECEIVERボタン
レシーバーサブウーファーの電源をオン/スタンバイにします。

2 ⏻TVボタン
テレビの電源をオン/スタンバイにします。

TV CTRLボタン
リモコンをテレビ操作モードに切り換えます。（本機の入力は切り換わりません。）

3 ⏻SOURCEボタン
選択している他機器の電源をオン/スタンバイにします。

4 入力切り換えボタン
本機の入力を切り換えます。このリモコンで他機器を操作するには、入力切り換えボタンのいずれかを押して、機器を選びます。

HDMI 1～3ボタン
入力をHDMI 1からHDMI 3のいずれかに切り換えます。

TVボタン
「TV入力の設定」(63ページ)で選択した入力に切り換え、リモコンの液晶操作画面をテレビ操作モードに切り換えます。

FM/AMボタン
ラジオを聞いたり、FM局とAM局を切り換えます。

LINEボタン
押すたびに入力が以下のように切り換わります。

Digital 1 → Digital 2 → Analog → iPod → Front Audio In → Digital 1

5 液晶操作画面
本機のほかに、プラズマテレビ、DVDプレーヤー、ブルーレイディスクプレーヤー、HDD/DVDレコーダーの操作ボタンが表示されます。操作する機器の種類が画面上部に表示されます。
画面表示が消えているときは、画面に触れるか、リモコンのいずれかのボタンを押すと、再び表示されます。

6 他機器操作ボタン
他機器の操作モード時に使用するボタンです。

7 ⇧⇩⇦⇨ /ENTERボタン
各種設定およびモードの選択や切り換え、決定などに使用します。

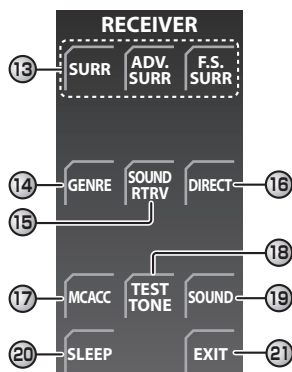
8 SETUPボタン
サラウンドやラジオの設定などを行うときに使用します。

9 RETURNボタン
設定を中止するときなどに使用します。

10 RCVボタン
リモコンが他機器の操作モードになっているときに、レシーバーサブウーファー操作モードに切り換えます。もう一度押すと、元の他機器の操作モードに戻ります。

11 VOL＋/－ボタン
音量を調節します。

12 MUTEボタン
音を一時的に消す（ミュートする）ときに使用します。もう一度押すと、元の音量に戻ります。

液晶操作画面

13 リスニングモード切り換えボタン

SURRボタン
リスニングモードをサラウンドモードに切り換えます。

ADV.SURRボタン
リスニングモードをアドバンスドサラウンドモードに切り換えます。

F.S.SURRボタン
リスニングモードをフロントサラウンド・アドバンスモードに切り換えます。

14 GENREボタン
ジャンル連動モードで音楽を聴くときに使用します。（このボタンは、HDD/DVDレコーダー操作モードからレシーバーサブウーファー操作モードに切り換えたときのみ表示します。）

- 本機発売時点では対応機器がありませんので、本機能は使用できません。

15 SOUND RTRVボタン
サウンドレトリバー機能の切り換えを行うときに使用します。

16 DIRECTボタン
エフェクティブサウンドモードのオン/オフを切り換えます。

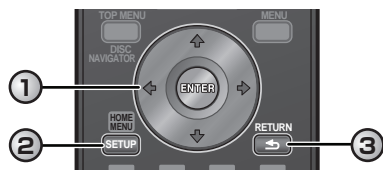
17 MCACCボタン
サウンドの自動設定を行うときに使用します。

18 TEST TONEボタン
テストトーンでスピーカーの音量バランスを調整するときに使用します。

19 SOUNDボタン
各種音質調整を行うときに使用します。

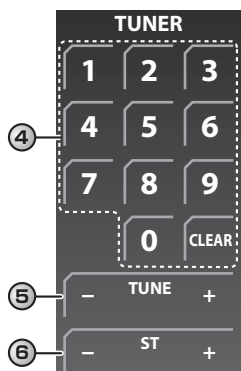
20 SLEEPボタン
スリープタイマーを使用するときに押します。

21 EXITボタン
設定を中止したり、RECEIVER画面を終了するときに使用します。

FM/AM チューナーの操作

1 ⇧⇩⇦⇨ /ENTERボタン
ラジオ放送受信時の各種設定を行うときに使用します。

2 SETUPボタン
サラウンドやラジオの設定などを行うときに使用します。

3 RETURNボタン
設定を取り消すときに使用します。

液晶操作画面

4 数字ボタン
ラジオステーションを直接選ぶときに使用します。

CLEARボタン
入力した数字を消去します。

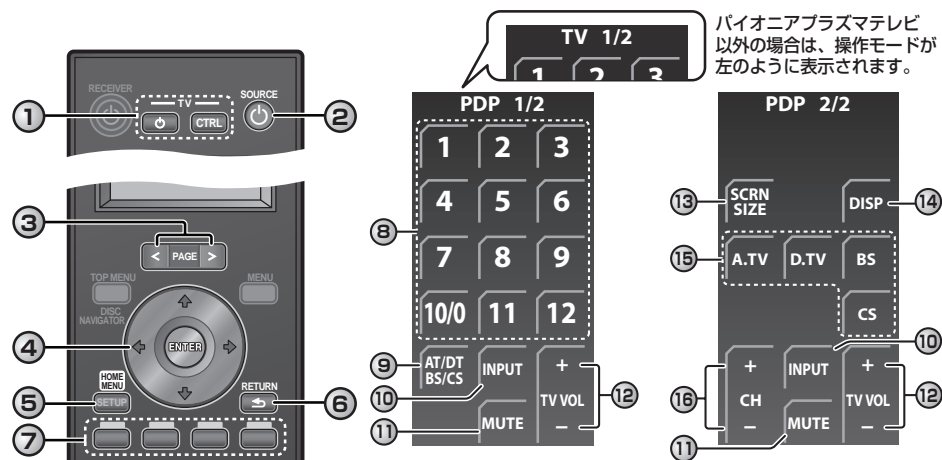
5 TUNE＋/－ボタン
ラジオ放送の周波数に合わせるときに使用します。

6 ST＋/－ボタン
登録したラジオのステーションを選ぶときに使用します。

パイオニアプラズマテレビまたはお手持ちのテレビの操作

はじめに36ページをご覧になり、お使いのテレビのプリセット設定を行ってください。
お使いのテレビによっては、ボタンを押しても操作できないことがあります。

- テレビの詳しい操作方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

パイオニアプラズマテレビ以外の場合は、操作モードが左のように表示されます。

1　⏻TVボタン
テレビの電源をオン/スタンバイにします。

TV CTRLボタン
リモコンをテレビ操作モードに切り換えます。（本機の入力は切り換わりません。）

2　⏻SOURCEボタン
テレビの電源をオン/スタンバイにします。

3　PAGE</>ボタン
液晶操作画面のページを切り換えます。

4　⇧⇩⇦⇨　/ENTERボタン
メニュー項目や設定内容の選択、決定などに使用します。

5　HOME MENUボタン
テレビのいろいろな設定をするためのメニューを表示します。

6　RETURNボタン
1つ前の操作に戻ります。

7　カラーボタン（青／赤／緑／黄）
番組表やデータ放送番組で、項目を選んだり表示を切り換えるときなどに使います。パイオニアプラズマテレビの場合、カラーボタンが使えるときは、テレビ画面にカラーボタンの操作ガイドが表示されます。

液晶操作画面

8　チャンネルボタン
見たい放送のチャンネルを選局します。

9　AT/DT、BS/CSボタン
地上アナログ、地上デジタル、BS デジタル、110 度CS デジタル（CS1/CS2）を選択します。

10 INPUTボタン
テレビの入力を切り換えます。

11 MUTEボタン
テレビの音を一時的に消します。

12 TV VOL＋/－ボタン
テレビの音量を調整します。

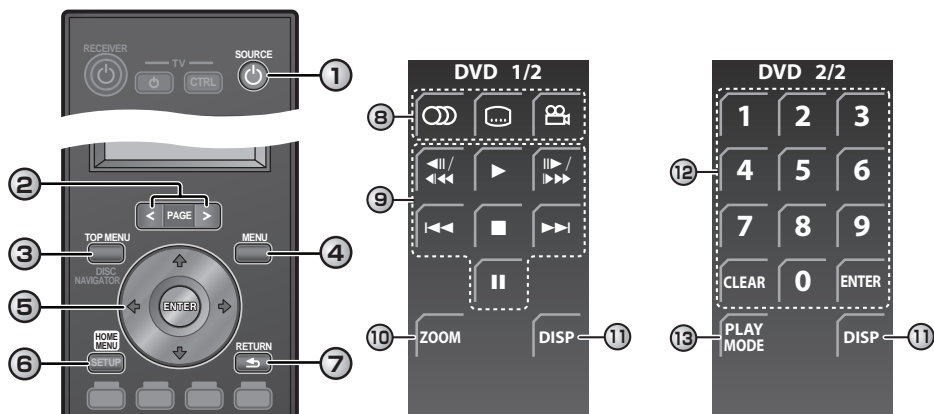
13 SCRN SIZEボタン
お好みの画面サイズを選択します。

14 DISPボタン
番組タイトルやチャンネル番号など現在の状態を確認するときに使用します。

15 放送切り換えボタン
地上アナログ(**A.TV**)、地上デジタル(**D.TV**)、BS デジタル(**BS**)、110 度CS デジタル（CS1/CS2）(**CS**)を選択します。

16 CH＋/－ボタン
チャンネルを順送り/ 逆送りで選局します。

パイオニア DVD プレーヤーの操作

- DVDプレーヤーの詳しい操作方法については、DVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

1 ⏻SOURCEボタン
DVD プレーヤーの電源をオン/スタンバイにします。

2 PAGE</>ボタン
液晶操作画面のページを切り換えます。

3 TOP MENUボタン
DVDビデオやDVDオーディオの最上層のメニュー画面を表示します。

4 MENUボタン
ディスクの種類により、メニュー画面またはディスクナビゲーターを表示します。

5 ⇧⇩⇦⇨ /ENTERボタン
項目を選択/変更したり、決定するときに使用します。

6 HOME MENUボタン
ホームメニューを表示/ 終了します。また、各種操作/ 設定画面を途中で終了します。

7 RETURNボタン
1つ前の画面に戻ります。

液晶操作画面

8 (音声切り換え)ボタン
(字幕切り換え)ボタン
(アングル切り換え)ボタン

9 ▶ (再生)ボタン
■ (停止)ボタン
❚❚ (一時停止)ボタン
◀❚❚/◀❚◀◀ (スロー逆再生/早戻し)ボタン
❚❚▶/❚▶▶▶ (スロー再生/早送り)ボタン
❙◀◀、▶▶❙ (スキップ)ボタン

10 ZOOMボタン
映像を拡大します。

11 DISPボタン
ディスクの情報を表示します。

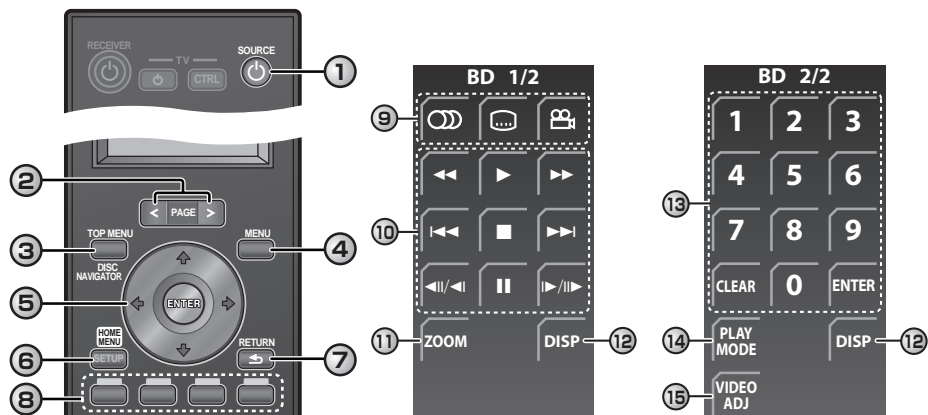
12 数字ボタン
タイトル/ チャプター / トラック番号を指定して再生するとき、またはメニュー画面で項目を選択するときなどに使います。

CLEARボタン
プログラム再生で設定した内容を取り消します。

ENTERボタン
選択/変更した項目を実行します。

13 PLAYMODEボタン
プレイモード画面を表示します。

パイオニアブルーレイディスクプレーヤーの操作

- ブルーレイディスクプレーヤーの詳しい操作方法については、ブルーレイディスクプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

1 ⏻SOURCEボタン
ブルーレイディスクプレーヤーの電源をオン/スタンバイにします。

2 PAGE</>ボタン
液晶操作画面のページを切り換えます。

3 TOP MENU/ DISC NAVIGATORボタン
BD/DVD の最上層のメニュー画面、またはディスクナビを表示します。

4 MENUボタン
BD/DVD のメニュー画面を表示します。

5 ⇧⇩⇦⇨ /ENTERボタン
項目を選択/変更したり、決定するときに使用します。

6 HOME MENUボタン
ホームメニューを表示/ 終了します。

7 RETURNボタン
1 つ前の画面に戻ります。

8 カラーボタン（青／赤／緑／黄）
BD のメニュー画面を操作するときに使います。

液晶操作画面

9 (音声切り換え)ボタン
(字幕切り換え)ボタン
(アングル切り換え)ボタン

10 ▶ (再生)ボタン
■ (停止)ボタン
II (一時停止)ボタン
◀◀/▶▶ (早送り/早戻し)ボタン
I◀◀/▶▶I (スキップ)ボタン
◀II/◀I、II▶/I▶ (スロー再生)ボタン

11 ZOOMボタン
画像ファイルを拡大します。

12 DISPボタン
ディスクの情報を表示します。

13 数字ボタン
見たい/聞きたいタイトル/チャプター/トラックを指定して再生するとき、またはメニュー画面で項目を選ぶときなどに使います。

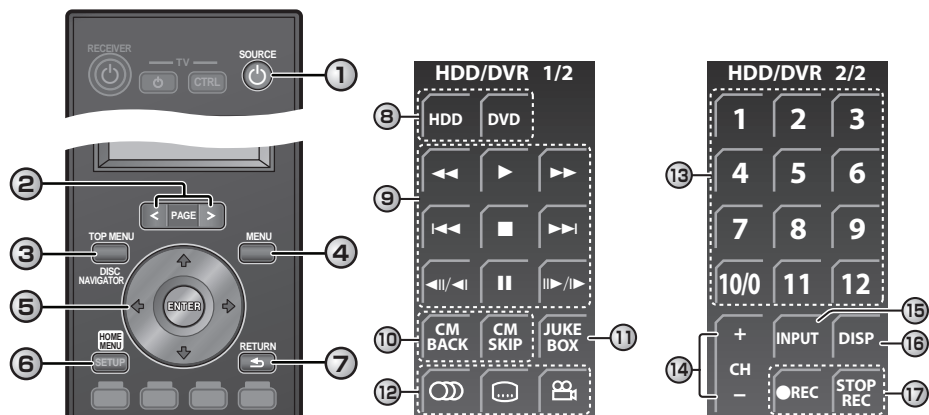
CLEARボタン
選んだ項目を取り消す、または番号の入力を間違えたときなどに使います。

ENTERボタン
選んだ項目を実行する、または変更した設定を確定するときなどに使います。

14 PLAYMODEボタン
プレイモード画面を表示/終了します。

15 VIDEO ADJボタン
画質調整画面を表示/終了します。

パイオニア HDD/DVD レコーダーの操作

- HDD/DVDレコーダーの詳しい操作方法については、HDD/DVD レコーダーの取扱説明書をご覧ください。

1 ⏻SOURCEボタン
HDD/DVD レコーダーの電源をオン/スタンバイにします。

2 PAGE</>ボタン
液晶操作画面のページを切り換えます。

3 TOP MENU/
DISC NAVIGATORボタン
ディスクナビを表示します。

4 MENUボタン
DVD ビデオやファイナライズしたDVD-R/-RW(ビデオモード)のディスクメニューを表示します。

5 ⇧⇩⇦⇨ /ENTERボタン
項目を選択/変更したり、決定するときに使用します。

6 HOME MENUボタン
ホームメニューを表示します。

7 RETURNボタン
1 つ前の画面に戻ります。

液晶操作画面

8 HDDボタン
HDDを選択します。
DVDボタン
DVDを選択します。

9 ► (再生)ボタン
■ (停止)ボタン
❚❚ (一時停止)ボタン
◄◄/►► (早送り/早戻し)ボタン
❙◄◄/►►❙ (スキップ)ボタン
◄❙❙/◄❙、❙❙►/❙► (スロー再生)ボタン

10 CM BACK (CMバック)ボタン
CM SKIP (CMスキップ)ボタン

11 JUKEBOXボタン
ジュークボックスを表示します。

12 (音声切り換え)ボタン
(字幕切り換え)ボタン
(アングル切り換え)ボタン

13 数字ボタン
番号を入力するとき、または選局するときに使います。

14 CH+/−ボタン
チャンネルを切り換えるときに使います。

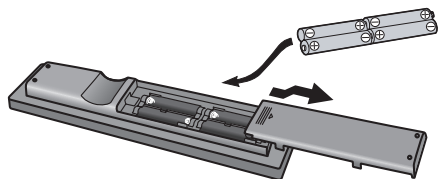
15 INPUTボタン
外部入力を切り換えます。

16 DISPボタン
ディスク情報などを表示します。

17 ●RECボタン
録画するときに使います。
STOP RECボタン
録画を停止します。

リモコンに電池を入れる

1　矢印の方向に、裏ブタを開く

2　ケース内に表記されている極性に合わせて、乾電池を入れる

3　裏ブタを閉める

- 乾電池のプラス⊕とマイナス⊖の向きを、電池ケースの表示どおりに正しく入れてください。
- 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池には同じ形状でも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 長い間（1か月以上）使用しないときは電池の液漏れを防ぐために電池を取り出してください。もし、液漏れを起こしたときは、ケース内についた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。

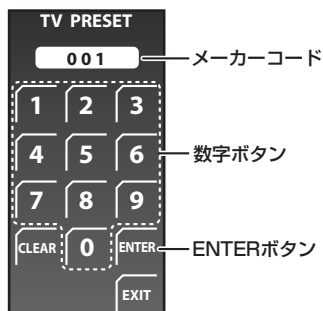
テレビプリセット設定

本機のリモコンでお使いのテレビを操作するときは、はじめに以下の手順でテレビのプリセット設定を行ってください。

1. TV **TVボタンを押して、TV入力に切り換える**

2. TV SETUP **TV ボタンを押しながら、SETUP ボタンを押す**

液晶操作画面が下図のように切り換わります。

TV PRESET
001 ―メーカーコード
1 2 3 4 5 6 7 8 9 ―数字ボタン
CLEAR 0 ENTER ―ENTERボタン
EXIT

3. 数字ボタンでテレビのメーカーコード（右記）を入力して、ENTERボタンを押す

数字を間違えて入力したときは、CLEARボタンで最後の1文字を消すことができます。

4. テレビを操作できるか確認する

リモコンをテレビに向けて⏻ SOURCEボタンを押したときに、テレビの電源を操作できることを確認してください。

- ひとつのメーカーに複数のコードがあるときは、操作できるまで順にコードを設定してください。

メーカーコードリスト

パイオニア	001（お買い上げ時の設定）, 002
アイワ	007, 008
富士通	055
FUNAI	057, 058, 059, 060
日立	081, 082
HYUNDAI	083
ビクター	096, 097
LG 電子	102
三菱	126
NEC	131
ORION	142
松下	148, 149, 150
PHILIPS	156
SAMSUNG	188
サンヨー	191, 192, 193, 194, 195, 196, 197, 198
シャープ	209, 210, 211
ソニー	215, 216
東芝	233, 234
ヤマハ	245, 246, 247, 248, 249

リモコンの使い方

本機に付属のリモコンは、レシーバーサブウーファーの他に、パイオニア製のプラズマテレビやDVDプレーヤー、ブルーレイディスクプレーヤー、HDD/DVDレコーダーを操作することができます。
これらの機器を操作するときは、リモコンをディスプレイユニットに向けて操作してください。

レシーバーサブウーファーの操作

● RCV **RCVボタンを押す**

リモコンの液晶操作画面の上部にRECEIVERと表示され、レシーバーサブウーファーの操作モード（RECEIVERモード）になります。

RECEIVER
SURR ADV SURR F.S. SURR

機器の切り換えと操作

1. 操作する機器を接続している入力のボタンを押す

HDMI
1 2 3 TV FM/AM LINE

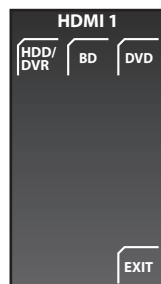
リモコンが、選択した機器の操作モードに切り換わります。

- Digital 1やDigital 2、Analog、Front Audio In、iPodの入力を選択するときは、ディスプレイユニットに入力名が表示されるまでLINEボタンを繰り返し押してください。

2. HDMI 1～HDMI 3またはLINE入力を選択した場合は、操作したい機器の種類を選ぶ

下図の液晶操作画面で機器の種類を選ぶと、リモコンが選択した機器の操作モードに切り換わります。

HDMI 1
HDD/DVR BD DVD
EXIT

HDMI入力選択時

LINE
HDD/DVR BD DVD
TV
EXIT

LINE入力選択時

- 液晶操作画面に操作したい機器の種類が表示されなかったり、お使いの機器がパイオニア製以外の場合は、リモコンのRCVボタンを押してRECEIVERモードに切り換えておいてください。

☑ メモ

- 接続している機器の音声を聞いているときに、本機を操作したいときは、リモコンのRCVボタンを押すと、入力を切り換えずにリモコンがRECEIVERモードに切り換わります。もう一度RCVボタンを押すと、直前の操作モードに戻ります。

液晶操作画面について

機器の操作モードによっては、操作画面が複数あることがあります。その場合は、リモコンのPAGEボタンを押して、操作したいボタンがある画面に切り換えてください。

- リモコンを約10秒間操作しないと、表示が消灯します。その場合は、画面に触れるかボタンを押すと再び表示します。

第５章：
準備する

RCV　レシーバーサブウーファーを操作するときは、RCVボタンを押してリモコンをRECEIVERモードにしてください。

RECEIVER
SURR　ADV SURR　F.S. SURR

サラウンドの自動設定 (MCACC)

本機のMCACC設定では、従来の手動調整では難しかったさまざまな設定を、自動で高精度に測定、設定することができます。
スピーカーから出力されるテストトーンを付属のセットアップ用マイクで測定し、解析します。すべての測定／解析にかかる時間は、4分半〜6分程度です。

☑ 注意

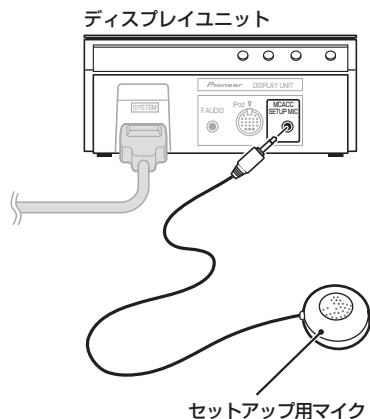
- 測定中は大きな音でテストトーンが出力されます。近隣住宅や小さなお子様などへのご配慮をお願いします。
- 測定の途中で音量を下げることもできますが、正しく設定されない場合があります。
- 付属のマイクをテレビモニター近くに置いてセットアップを行わないでください。

☑ メモ

- 測定中は静かにしてください。
- スピーカーとリスニングポジション（マイク）の間に障害物があると、正確に測定できないことがあります。
- 測定中はリスニングポジションから離れて、各スピーカーの外側からリモコンで操作を行ってください。
- 測定を中断した場合は、それまでの測定内容は確定されません。
- サラウンドの自動設定(MCACC)を行うと、手動で微調整した以下の内容もすべてリセットされます。
  ・スピーカー出力レベル(48ページ)
  ・各スピーカーまでの距離(50ページ)

1. セットアップ用マイクを接続する

ディスプレイユニット背面のMCACC SETUP MIC端子に接続します。

ディスプレイユニット
Pioneer DISPLAY UNIT
SYSTEM
F.AUDIO
iPod
MCACC SETUP MIC
セットアップ用マイク

2. マイクを視聴位置に設置する

マイクは視聴位置（耳の位置）に三脚や台などを使って水平になるように設置します。

3. RECEIVER ⏻RECEIVERボタンを押して電源をオンにする

4. MCACCボタンを押す

MCACC Setup

自動的に音量が上がり、自動設定が始まります。

「Please Wait」と表示し、テストトーンが出力されます。

「Now Analyzing」⇔「Ambient Noise」
：部屋の騒音をチェック中
「Now Analyzing」⇔「MIC Check」
：マイクの接続をチェック中
「Now Analyzing」⇔「Speaker Check」
：すべてのスピーカーの接続をチェック中
「Now Analyzing」⇔「Channel Level」
：各スピーカーの出力バランスを補正中
「Now Analyzing」⇔「Distance」
：各スピーカーまでの距離を解析中
「Now Analyzing」⇔「Reverb」
：各スピーカーの残響特性の測定
「Now Analyzing」⇔「Standing Wave」
：各スピーカーの定在波の影響を軽減
「Now Analyzing」⇔「EQ Pro」
：出力音声の音色を統一

5. ディスプレイに「Complete」と表示されたら自動設定は終了です

MCACCボタンを押す前の音量に戻り、アコースティックEQが自動的にオンになります。MCACCエフェクトのオン/オフについては46ページをご覧ください。

☑ メモ

- MCACC設定後はセットアップ用マイクを本体から抜いてください。
- 「Complete」と表示されないまま自動設定が中断されたときは、スピーカー、マイクの接続を確認し、もう一度はじめから自動設定をやり直してください。
- 操作が禁止されているときに MCACCボタンを押すと、警告メッセージが点滅します。(69ページ)
- 手順4の自動設定中に、以下のエラーメッセージが表示されることがあります。そのときは「原因／対策」をご覧ください。

エラー表示	原因／対策
Noisy! ⬇ Retry	部屋の騒音レベルが大きい。 静かにしてからENTERボタンを押します。
Error MIC! ⬇ Check MIC	セットアップ用マイクが接続されていません。 セットアップ用マイクを接続してから ENTERボタンを押します。
Error Speaker! ⬇ Check Speaker	接続されていないスピーカーがあります。 すべてのスピーカーを配置、接続してから ENTERボタンを押します。

エラー表示が出て、「原因／対策」の項目を実行しても正しく終了しないときは、MCACCボタンを押して自動設定を中断したあと、本機の電源をオフにし、接続をもう一度確認してから手順3より操作してください。

第６章：

サラウンド再生

RCV　レシーバーサブウーファーを操作するときは、RCVボタンを押してリモコンをRECEIVERモードにしてください。

RECEIVER
SURR　ADV SURR　F.S. SURR

音源と音声出力について

音源

CDやDVDに収録されている音声、ラジオの音声、または外部入力端子に接続した機器の音声を音源といいます。音源には、ステレオ音声とマルチチャンネル音声があります。

- **ステレオ音声**
  左と右の２チャンネルが収録された音声です。主にCDやラジオ放送などで使われています。左と右に同じ音声が収録されているときはモノラル音声といいます。
- **マルチチャンネル音声**
  ステレオ音声より多くのチャンネルが収録された音声です。音声収録方式にはドルビーデジタルやDTS、MPEG-2 AACなどがあります。主にDVDビデオなどで使われています。

音声出力

スピーカーから出力する音声です。本機には2つの音声出力があります。

- **ステレオ音声出力（2.1ch）**
  フロントスピーカー(左/右の2チャンネル)とサブウーファー(低音専用なので0.1チャンネルと呼ばれています)から音声を出力します。センタースピーカーからは音声を出力しません。
- **サラウンド音声出力（5.1ch）**
  フロントスピーカー (左/右の2チャンネル)、センタースピーカー(1チャンネル)、およびサラウンドスピーカー (左/右の2チャンネル)の合計5チャンネルと、サブウーファー (0.1チャンネル)から音声を出力します※。音源がステレオ音声やモノラル音声でも、センターおよびサラウンドの音声を作って出力します。

  ※音源によっては、サラウンドスピーカーから音声が出力されないことがあります。また、センタースピーカーからのみ音声が出力されることがあります。

エフェクティブサウンドで楽しむ

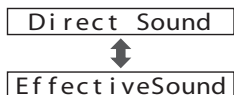
本機では、付属のハイクオリティ・スピーカーと組み合わせ、パイオニアの音響技術を結集した最高のサウンドを楽しむことができる、エフェクティブサウンドを搭載しています。
エフェクティブサウンドでは、映画や音楽の持つ臨場感を最大限に引き出すために、以下のようなパイオニア独自の音響技術を取り入れています。

- **ダイアログエンハンスメント**
  映画のセリフを背景音から際立たせ、明瞭に定位させます。
- **ダイナミックレンジコンプレッション**
  暗騒音や生活音などによって埋もれてしまいがちな微細な音を蘇らせ、シーンにいるような雰囲気、臨場感を演出します。
- **オリジナルチャンネルバランス&チャンネルミックス**
  独自形状の付属スピーカーを最適な配分でチャンネルミックスし、チャンネルごとのバランスを整えています。さらに再生している音源に合わせて、最適なバランスに鳴るように自動的に調整します。
- **周波数特性補正**
  付属のスピーカーの特性を加味したうえで、最適な再生特性を実現します。
- **包囲感のあるステレオ再生**
  前方にボーカルを定位させながら、サラウンドスピーカーからも音声を出力します。CDなどのステレオソースも、自然で心地よいサラウンド再生を行います。（Autoモードでステレオ音声を再生したときに効果があります。）

通常はエフェクティブサウンドでお楽しみください。エフェクティブサウンドをオフにする（ダイレクトサウンドを選択する）場合は以下のように操作します。

- DIRECT **DIRECTボタンを押す**

  ダイレクトサウンドに切り換わり、DIRECTインジケーターが点灯します。
  - DIRECTボタンを押すたびに、エフェクティブサウンドとダイレクトサウンドが切り換わります。

  Direct Sound
  ⇕
  EffectiveSound

サラウンド再生を楽しむ(リスニングモードを選択する)

本機には、多彩な音響効果を楽しんだり、お好みで音場補正も可能なさまざまなリスニングモードがあります。スピーカーの配置をノーマルサラウンドセッティング（13ページ）にしている場合は、**サラウンド/アドバンスドサラウンド**の中からリスニングモードを1つ選択することができます。
サラウンドスピーカーをお部屋の前方に置くフロントサラウンドセッティング（13ページ）にしている場合は、**フロントサラウンド・アドバンス**を選択してください。

リスニングモードは下図のとおり用意されています。

リスニングモード
- サラウンドモード … 音声に対し標準的なデコードを行うリスニングモードです。入力ソースに合わせて自動で切り換えるオートモードや、ステレオダウンミックスモードもあります。
  - Auto、Stereo、Dolby Pro Logicなど
- アドバンスドサラウンドモード … 映画や音楽などソフトのジャンルに合った音響効果で楽しめるパイオニアオリジナルのリスニングモードです。
  - Action、Drama、Classicalなど
- フロントサラウンド・アドバンスモード … フロントサラウンドセッティングのときに最適なリスニングモードです。
  - Focus 5.1ch、Wide 5.1ch、Extra Power

サラウンドモードを選択する

ノーマルサラウンドセッティング(13ページ)のときに最適な効果を発揮します。お聴きになるソフトのジャンルに合わせて選択してください。

■ステレオ音声再生時

- Auto 5.1ch
  ボーカルの定位感、ステレオ感を維持しつつ、独自処理により包囲感のある音場を再現します。
- DDPLII Movie 5.1ch
  サラウンドチャンネルは定位や移動感を重視し、ドルビーデジタルなどに迫る音場を再現します。特にドルビーサラウンドで収録されている映画ソフトに最適です。
- DDPLII Music 5.1ch
  サラウンドチャンネルは包囲感を重視しています。特にCDなどの音楽に最適です。
- DDPLII Game 5.1ch
  テレビゲームなどを楽しむときに効果的です。
- DDPro Logic 5.1ch
  ドルビーサラウンドで収録されている音源に効果的です。(サラウンドチャンネルの音声はモノラルになります。)
- Neo:6 Cinema 5.1ch
  擬似的に6.1チャンネル化され、生成されたサラウンドバック信号はサラウンドチャンネルに合成され、5.1チャンネルで出力されます。映画ソフトに最適です。
- Neo:6 Music 5.1ch
  擬似的に6.1チャンネル化され、生成されたサラウンドバック信号はサラウンドチャンネルに合成され、5.1チャンネルで出力されます。音楽ソースに最適です。
- Stereo 2.1ch
  ステレオ再生(左右2つのフロントスピーカーとサブウーファーのみによる再生)します。

■マルチチャンネル音声再生時

- Auto 5.1ch
  DVDビデオなどのマルチチャンネル音声を音声収録方式に応じて出力します。
- StandardDecode 5.1ch
  ドルビーデジタルやDTS、マルチチャンネルPCMなどのマルチチャンネル音声を標準的なデコードで再生します。
- Stereo 2.1ch
  マルチチャンネル音声もステレオで出力します。

● SURR **SURRボタンを押して、お好みのモードを選ぶ**

押すたびに、モードが切り換わります。上記の中からモードを選んでください。

- モード表示中に ⇧ ⇩ ボタンで切り換えることができます。

☑ **メモ**

- ドルビープロロジックIIミュージックモードやNeo:6 ミュージックモードには、さらに音響効果を加えることができます。(47ページ)
- DTS-ESに代表される6.1/7.1チャンネル音声のサラウンドバック信号は、正確にデコードし、独自のバーチャルサラウンドバック機能(52ページ)により、サラウンド信号と合成して出力されます。
- DTS-HD、DTS-Express、Dolby TrueHD (176.4 kHz/192 kHz)音声を再生中は、AutoまたはStereo以外は選択できません。
  また、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD (96 kHz以下) 音声を再生中は、Neo:6 CinemaとNeo:6 Musicは選択できません。

アドバンスドサラウンドモードを選択する

ノーマルサラウンドセッティング(13ページ)のときに、パイオニアオリジナルのサラウンド効果を加えて再生するリスニングモードです。表示部に**ADV.SURR.**インジケーターが点灯します。

- **Action** 5.1ch
  アクションシーンや戦闘、爆発シーンの迫力が、包み込むように再現され、映画の迫力や臨場感を楽しめます。
- **Drama** 5.1ch
  落ち着いた雰囲気でストーリー性重視の映画の再生に効果的です。
- **Sci-Fi (Science Fiction)** 5.1ch
  セリフと効果音の分離が良いため、SF映画などのSE（特殊効果音）の多いソースに効果的です。
- **Mono Film** 5.1ch
  古い映画やモノラル信号のテレビ放送などを楽しむのに効果的で、マルチチャンネルサラウンドで再生します。
- **Ent.Show (Entertainment Show)** 5.1ch
  ミュージカルのサラウンド感や、劇場ホールのような雰囲気を楽しめます。
- **Expanded** 5.1ch
  2チャンネルで収録された音声を、5.1チャンネルのサラウンド効果で再生できます。ドルビーサラウンドソフト再生時は特に効果的です。
- **TV Surround** 5.1ch
  テレビ放送のほとんどの割合を占めるモノラル信号やステレオ信号をマルチチャンネルサラウンドで再生します。
- **Advanced Game** 5.1ch
  ゲームのスピード感、躍動感をより一層に高めます。シューティングゲームやレーシングゲームなど、右へ左へ駆け巡るような流れのあるシーンの多いゲームに効果的です。
- **Sports** 5.1ch
  スポーツ中継の視聴に最適です。その場で観戦しているような臨場感を体感できるサラウンド再生です。
- **Classical** 5.1ch
  大型のコンサートホールをイメージしています。反射音の遅延時間帯が長く、さらに残響音を加えることでコンサートホール特有の美しい響きと、オーケストラの迫力が楽しめます。
- **Rock/Pop** 5.1ch
  楽器の分離感と臨場感があり、躍動感のあるサラウンドを楽しめます。
- **Unplugged** 5.1ch
  アコースティック系の音楽ソースに最適なモードです。
- **Ext.Stereo (Extended Stereo)** 5.1ch
  標準のステレオ（2チャンネル）音声を加工することなく、ステレオ音声のまま5.1チャンネルで再生します。部屋のどの場所でも同じようなステレオ感が得られます。

● ADV. SURR

ADV.SURRボタンを押して、お好みのモードを選ぶ

押すたびに、モードが切り換わります。上記の中からモードを選んでください。

- モード表示中に⇧⇩ボタンで切り換えることができます。

☑ メモ

- アドバンスドサラウンドモードを解除したいときは、**SURR**ボタンを押してください。
- 以下の音声信号入力時は、アドバンスドサラウンドモードの切り換えができません。
  ・Dolby TrueHD (88.2 kHz以上)
  ・DTS-HD (88.2 kHz以上、またはチャンネルフォーマット2/0)
  ・DTS-Express (チャンネルフォーマット2/0)

フロントサラウンド・アドバンスモードを選択する

「フロントサラウンドセッティング」(13ページ)のときに最適な効果を発揮するモードです。表示部にF.S.SURR.インジケーターが点灯します。

- Focus 5.1ch 5.1ch
  臨場感のある自然なサラウンド効果が得られます。前面に置いた左右のスピーカーから等距離の直線上で視聴してください。
- Wide 5.1ch 5.1ch
  Focus 5.1chよりも横に広い範囲でサラウンド効果が得られます。
- Extra Power 5.1ch
  より力強いステレオ再生を実現します(マルチチャンネルの場合、ステレオにダウンミックスされます)。

- F.S. SURR **F.S.SURRボタンを押して、お好みのモードを選ぶ**

  押すたびに、モードが切り換わります。左記の中からモードを選んでください。

  - モード表示中に⇧⇩ボタンで切り換えることができます。

☑ **メモ**

- フロントサラウンド・アドバンスモードを解除したいときは、SURRボタンを押してください。
- 以下の音声信号入力時は、フロントサラウンド・アドバンスモードの切り換えができません。
  ・Dolby TrueHD (88.2 kHz以上)
  ・DTS-HD (88.2 kHz以上、またはチャンネルフォーマット2/0)
  ・DTS-Express (チャンネルフォーマット2/0)

圧縮音声を高音質化する（サウンドレトリバー）

WMA、MP3、MPEG-4 AACなどのステレオ圧縮音声を再生するときに効果的です。圧縮音声は圧縮処理される際、人が感じ取りにくい部分の音声が削除されてしまいます。サウンドレトリバー機能では、削除されてしまった部分の音声をDSP処理によって補い、音の密度感、抑揚感を向上させて再生します。

● SOUND RTRV

SOUND RTRVボタンを押す

押すたびに、オンとオフが切り換わります。

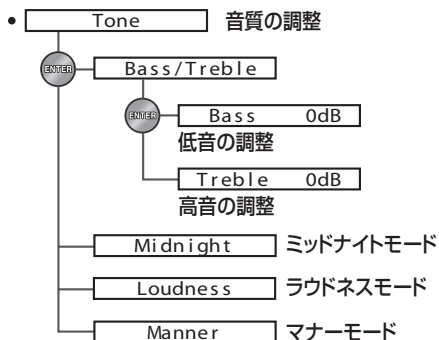
Retriever On
⇕
Retriever Off

● オンのときは表示部に**S.RTRV**インジケーターが点灯します。

☑ メモ

- 以下の音声信号を再生しているときは、サウンドレトリバー機能を切り換えることができません。
  ・マルチチャンネル音声
  ・SACD、DTS-HD、DTS-Express、Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus および PCM 192 kHz/176.4 kHzのステレオ音声
- 上記の音声を再生しているときは、サウンドレトリバー機能の効果は得られません。

サウンドの調整を行う

ダイレクトサウンド時に選択したリスニングモードのサラウンド効果に、さらにさまざまな音質の調整を加えて、お好みの音場を創り出すことができます。音質を調整する項目は以下のとおりです。各項目についての詳細は、46～47ページをご覧ください。

- Tone　音質の調整
  - ENTER → Bass/Treble
    - ENTER → Bass 0dB　低音の調整
    - Treble 0dB　高音の調整
  - Midnight　ミッドナイトモード
  - Loudness　ラウドネスモード
  - Manner　マナーモード
- Sound Delay　サウンドディレイの調整
- MCACC Effect　MCACCエフェクト
- Center Width　センター幅の調整※1
- Dimention　ディメンションの調整※1
- Panorama　パノラマ調整※1
- Center Image　センターイメージ※2

※1 サラウンドモードのドルビープロロジックIIミュージックモード選択時のみ設定することができます。

※2 サラウンドモードのNeo:6ミュージックモード選択時のみ設定することができます。

1. SOUND **SOUNDボタンを押す**

2. **⇦ ⇨ で各調整項目を選択して、ENTERボタンを押す**

左記の各調整項目と現在の設定内容が表示されます。

3. **⇧ ⇩ で、手順2で選択した調整項目の設定内容を選ぶ**

4. ENTER **ENTER ボタンを押して、設定モードを終了する**

設定項目	設定内容
Tone **音質の設定**	● Bass/Treble : 低音と高音の音質をお好みで調整できます。 ● Bass（低音の調整）：－6dB～ ＋6dB 再生する曲の低音 (Bass) の音質を調整します。 0dB が標準の音質です。 ● Treble（高音の調整）：－6dB～ ＋6dB 再生する曲の高音(Treble)の音質を調整します。 0dBが標準の音質です。 ● Midnight（ミッドナイト）： 音量を小さくすると、サラウンドサウンドが弱くなったり、微小な音が聴こえにくくなることがあります。この機能は、音量を小さくしても、ほどよい臨場感と高域のクリア感を確保することができるモードです。夜間に音量を小さくして、主にマルチチャンネル音声の映画を楽しむ場合に適しています。 ● Loudness（ラウドネス）： この機能は、音量を小さくしても、ほどよい臨場感と高域のクリア感を確保することができるモードです。音量を小さくして、主にステレオ音声を楽しむ場合に適しています。 ● Manner（マナー）： 夜間に音楽や映画を楽しむとき、突然の爆発音などが大きく出ることがあり、隣室などへ音もれといった迷惑をかけることがあります。この機能は、低域と高域を抑えることにより隣室などへの音もれを低減しつつ、セリフを聴き取りやすくするモードです。 • MidnightやLoudness、Mannerをオフにしたいときは、Bass/Trebleを選択します。
Sound Delay **サウンドディレイの調整** （DVDソフトなどで、映像の動きの方がセリフなどの音声より遅れている場合、音声全体を遅らせることで、映像の動きと音声とを合わせることができます）	● 0～ 60 0は音声は遅延しません。1ステップあたり0.1フレーム（1フレームは1/30秒）で、60（6.0フレーム）まで遅延させることができます。 • オートディレイ設定が On のときは、選択できません。(63ページ)
MCACC Effect **MCACCエフェクト** サウンドの自動設定(Auto MCACC)で設定された内容の有効/無効を選びます。	● MCACC On : Auto MCACCで設定されたすべての内容（チャンネルレベル設定・スピーカー距離補正・周波数補正・定在波補正）を有効にします。 ● MCACC Off : Auto MCACCで設定されたすべての内容を無効にします。 • MCACC Offを選択したときは、チャンネルレベル設定とスピーカー距離補正については手動で調整することができます。

設定項目	設定内容
Center Width **センター幅の調整** ドルビープロロジックIIミュージックモード時、センターチャンネルの音声を左右のフロントスピーカーにどの程度振り分けるかを調整します。 この調整によって音色の不一致を緩和させることが可能になり、音楽再生に適した音域を創り出すことができます。	● 0 ～ 7 0はセンタースピーカーのみからの出力で、7はセンターチャンネルの音声をすべて左右のフロントスピーカーに振り分けます。 • 本機はデュアルセンタースピーカー方式のため、通常は3に設定してください。 • ドルビープロロジック II ミュージックモード時のみ選択できます。 • マルチチャンネル音声を再生しているときは、選択できません。
Dimention **ディメンションの調整** ドルビープロロジックIIミュージックモード時、リスニングポジションから前方の音場を強くするか、後方の音場を強くするかを調整します。この調整を行うことで広がりのある音場を創り出すことができます。	● −3 ～ +3 −3はリスニングポジションから後方の音場が強くなり、+3は前方の音場が強くなります。 • ドルビープロロジック II ミュージックモード時のみ選択できます。 • マルチチャンネル音声を再生しているときは、選択できません。
Panorama **パノラマ調整** ドルビープロロジックIIミュージックモード時、前方の音場を左右に大きく回り込ませ、サラウンドチャンネルにつなげるようなサラウンド効果を加えます。正確な定位よりも雰囲気を楽しむための機能です。	●Panorama Off / Panorama On • ドルビープロロジック II ミュージックモード時のみ選択できます。 • マルチチャンネル音声を再生しているときは、選択できません。
Center Image **センターイメージ** Neo:6ミュージックモード時、センターチャンネルの音声を左右のフロントスピーカーにどの程度振り分けるかを調整します。 この調整によって音色の不一致を緩和させることが可能になり、音楽再生に適した音場を創り出すことができます。	● 0 ～ 10 0はセンタースピーカーのみからの出力で、10はセンターチャンネルの音声をすべて左右のフロントスピーカーに振り分けます。 • 本機はデュアルセンタースピーカー方式のため、通常は3に設定してください。 • Neo:6ミュージックモード時のみ選択できます。 • マルチチャンネル音声を再生しているときは、選択できません。

スピーカー出力レベルを設定する

● サラウンドの自動設定（MCACC）（38ページ）を行った場合、「スピーカー出力レベルの調整」は自動で高精度に測定/設定されているので、ここでの設定は必要ありませんが、お好みに応じて調整することもできます。

あるスピーカーからの音のみを大きくしたり小さくしたりしたいときに、そのチャンネルのレベルを調整することができます。
ただし、この調整を行ったあとにMCACCを行うと、ここでの設定は無効になります。

再生している音声で調整する

ラジオやCD、DVDなどの音声を聞きながら、各スピーカーごとにお好みの音の大きさに調整する方法です。

1. SETUP **SETUPボタンを押す**

2. **⇦ ⇨ で "Sound Setup" を選んで、ENTERボタンを押す**

Sound Setup

3. **⇦ ⇨ で "ChannelLevel" を選んで、ENTERボタンを押す**

ChannelLevel

4. **⇦ ⇨ で、出力レベルを調整するチャンネルを選択する**

L（フロント左）
↕
C（センター）
↕
R（フロント右）
↕
SR（サラウンド右）
↕
SL（サラウンド左）
↕
SW（サブウーファー）

5. **⇧ ⇩ で、各チャンネルの出力レベルを調整する**

チャンネルレベルは、±10 dBの範囲で調整できます。

6. **手順４から５を繰り返して、各スピーカーのレベルを調整する**

7. ENTER **ENTERボタンを押す**

☑ メモ

- MCACCエフェクトがOnのときとOffのときで、別々に設定が記憶されます。
- 音量が51以上のときは、調整範囲が制限されます。

テストトーンで調整する

ザーというテストトーンを聞きながら、各スピーカーの音量バランスを調整する方法です。

1. TEST TONE

TEST TONEボタンを押す

以下の順番で、各チャンネルのテストトーン（ザーという音）が、自動的に切り換わって出力されます。

L(フロント左)
↓
C(センター)
↓
R(フロント右)
↓
SR(サラウンド右)
↓
SL(サラウンド左)
↓
SW(サブウーファー)

2. + VOL − RECEIVER

調整しやすい音量にする

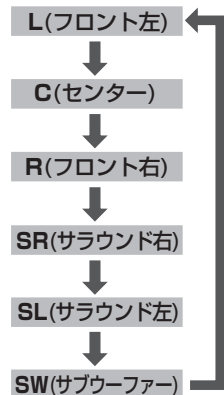
3.

⇧⇩で、テストトーンが出力されているスピーカーの出力レベルを調整する

各スピーカーからの音が同じ大きさに聞こえるように調整してください。チャンネルレベルは±10 dBの範囲で調整できます。

4. ENTER

すべてのスピーカーの調整が終了したら、ENTERボタンを押す

テストトーンが止まり、調整を終了します。

☑ **メモ**

- サブウーファーのテストトーンは、周波数が低いので実際のレベルより小さく聞こえる場合があります。
- サブウーファーの調整は実際に音楽や映画ソースなどを使って適切な値に調整することをお勧めします。(48ページ)
- MCACCエフェクトがOnのときとOffのときで、別々に設定が記憶されます。
- 音量は50以下に設定してください。

スピーカーの距離を設定する

● サラウンドの自動設定 (MCACC)(38ページ)を行った場合、「スピーカー出力レベルの調整」は自動で高精度に測定/設定されているので、ここでの設定は必要ありませんが、お好みに応じて調整することもできます。

リスニングポジションから各スピーカーまでの距離を設定します。それぞれのスピーカーまでの距離を入力することによって、その差に生じる音のタイミングのズレが自動的に補正され、リスニングポジションで適切な音場効果を得ることができます。
ただし、この調整を行ったあとにMCACCを行うと、ここでの設定は無効になります。

1. SETUP **SETUPボタンを押す**

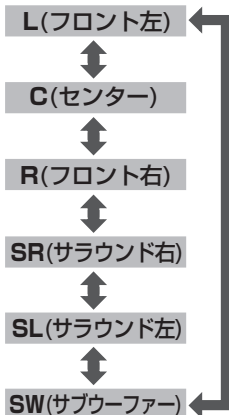
2. **⇦ ⇨ で "Sound Setup" を選んで、ENTERボタンを押す**

Sound Setup

3. **⇦ ⇨ で"Distance"を選んで、ENTERボタンを押す**

Distance

4. **⇦ ⇨ で、距離を設定するチャンネルを選ぶ**

L(フロント左)
↕
C(センター)
↕
R(フロント右)
↕
SR(サラウンド右)
↕
SL(サラウンド左)
↕
SW(サブウーファー)

5. **⇧ ⇩ で、各スピーカーまでの距離を設定する**

0.1 m～9.0 mの間を0.1 m間隔で設定できます。

6. **手順４から５を繰り返して、各スピーカーまでの距離を設定する**

7. ENTER **ENTERボタンを押す**

☑ メモ

- MCACCエフェクトがOn のときとOffのときで、別々に設定が記憶されます。

ダイナミックレンジコントロールを設定する

ダイナミックレンジとは再生能力を表す用語で、どのくらい小さな音からどのくらい大きな音までをきちんと（小さな音はノイズに埋もれずに、大きな音は歪まずに）再生できるかを数値（dB）で表したものです。ダイナミックレンジコントロールとは、このダイナミックレンジを圧縮する機能です。音量を下げて映画を楽しむときなどは、ダイナミックレンジを圧縮すると微小な音も聞きやすくなり、映画をより一層楽しむことができます。

1. SETUP　SETUP ボタンを押す

2. ⇦ ⇨ で"Sound Setup"を選んで、ENTERボタンを押す

Sound Setup

3. ⇦ ⇨ で"D.R.C."を選んで、ENTERボタンを,押す

D.R.C.

4. ⇧ ⇩ で設定を選んで、ENTERボタンを押す

- D.R.C. Auto

ドルビー TrueHD の D.R.C. Auto に対応した信号に対してのみダイナミックレンジを圧縮します。

- D.R.C. High

ダイナミックレンジを最も圧縮します。

- D.R.C. Mid

ダイナミックレンジを少し圧縮します。

- D.R.C. Off

ダイナミックレンジを圧縮せずに音声信号をそのまま再生します。

☑ **メモ**

- ダイナミックレンジコントロールに対応しているドルビーデジタル音声やDTS音声などに効果があります。
- 再生しているディスクによっては、効果の少ないものもあります。

デュアルモノの設定

DVDレコーダーなどの機器で、録画した二カ国語放送(ドルビーデジタル 1+1デュアルモノ音声）を再生しているときや、地上/BS/CSデジタルチューナーなどで、二カ国語番組(MPEG-2 AAC 1+1デュアルモノ音声）を視聴しているときに、音声選択を行います。

1. SETUP　SETUPボタンを押す

2. ⇦ ⇨ で"Sound Setup"を選んで、ENTERボタンを押す

Sound Setup

3. ⇦ ⇨ で"Dual Mono"を選んで、ENTERボタンを押す

Dual Mono

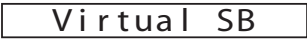
4. ⇧ ⇩ で設定を選んで、ENTERボタンを押す

- CH1 Mono

チャンネル 1 のみを再生します。

- CH2 Mono

チャンネル 2 のみを再生します。

- CH1/CH2

チャンネル 1、2 の音声を左右のフロントスピーカーから振り分けて再生します。

☑ **メモ**

- MPEG-2 AAC、ドルビーデジタルの1+1デュアルモノ音声のときのみ音声を切り換えることができます。
- 再生側の機器のデジタル出力設定が、リニアPCMに設定されていると、デュアルモノ音声にはなりません。ドルビーデジタルやMPEG-2 AACなどで出力してください。
- アナログ接続のときはデュアルモノ音声を切り換えることはできません。再生側の機器で切り換えてください。

バーチャルサラウンドバックの設定

仮想のサラウンドバック音声を創り出して、サラウンドスピーカーから出力します。これにより、6.1チャンネルでエンコードされたドルビーデジタルEXやDTS-ESといったサラウンドバック信号を含んだ音声信号を、本機で聞くことができます。

1. SETUP **SETUPボタンを押す**

2. **⇦ ⇨ で"Sound Setup"を選んで、ENTERボタンを押す**

Sound Setup

3. **⇦ ⇨ で"Virtual SB"を選んで、ENTERボタンを押す**

Virtual SB

4. **⇧ ⇩ で設定を選んで、ENTERボタンを押す**

- **Vir.SB Auto**

6.1 チャンネル再生検出信号を含んだ音声信号やリスニングモードによって、仮想のサラウンドバックチャンネル音声を創り出します。

- **Vir.SB On**

仮想のサラウンドバックチャンネル音声を創り出します。

- **Vir.SB Off**

仮想のサラウンドバックチャンネル音声を創り出しません。

☑ **メモ**

- サラウンドチャンネルが収録されていないソース(シーン)では、仮想のサラウンドバックチャンネル音声を創り出すことはできません。

LFE アッテネーターの設定

ドルビーデジタルやDTS 音声には、LFE （超低域音声成分）が含まれていることがあります。LFE レベルが大きくて、スピーカーからの音声に歪みが生じるときは、LFE レベルをアッテネート（減衰）します。

1. SETUP **SETUPボタンを押す**

2. **⇦ ⇨ で"Sound Setup"を選んで、ENTERボタンを押す**

Sound Setup

3. **⇦ ⇨ で"LFE ATT"を選んで、ENTERボタンを押す**

LFE ATT

4. **⇧ ⇩ で減衰量を選んで、ENTERボタンを押す**

減衰量は、0dB、－5dB、－10dB、－15dB、－20dB、Off から選ぶことができます。

- 0dB を選択したときは減衰しません。
- Offを選択したときはLFE信号が出力されません。

第７章：
ラジオを聞く

放送局を受信する

アンテナが接続されていないと、FM/AM放送を聞くことはできません。22 ページを参照して、アンテナを接続してください。

1. FM/AM **FM/AMボタンを押す**

ラジオが聞ける状態になります。

FM 76.00MHz

AM 522kHz

FM/AMボタンを押すたびに、FMとAMが切り換わります。
FM放送を聞くときはFMを、AM放送を聞くときはAMを選択してください。

2. TUNE **TUNE＋/－ボタンを押して、聞きたい放送局に周波数を合わせる**

周波数の合わせ方（チューニング）には、以下の3通りがあります。

- **オートチューニング**

TUNE＋/－ボタンを押し続けて、周波数が動き始めたら指を離します。
周波数が自動的に変化して、放送局を受信すると自動的に止まります。
途中で止めるときは、もう一度**TUNE＋/－**ボタンを押すか、**ENTER**ボタンを押します。

- **マニュアルチューニング**

TUNE+/－ボタンを1回ずつ押します。
周波数が1ステップずつ変化します。

- **ハイスピードマニュアルチューニング**

TUNE＋/－ボタンを押し続けます。
ボタンを押している間、周波数が連続して変化し、指を離すと止まります。

FM 放送の雑音を減らす

遠い放送局や電波の弱い地域などで、FMのステレオ放送に雑音が多いときは、強制的にモノラルにして放送を聞きやすくすることができます。
通常は、放送局側に合わせて自動的にステレオとモノラルを切り換える"**FM Auto**"に設定してください。

1. FM/AM **FM/AMボタンを押して、FM放送を受信する**

放送局の受信のしかたは、左記を参照してください。

2. SETUP **SETUPボタンを押す**

3. ENTER **⇦ ⇨ で"Tuner Setup"にして、ENTERボタンを押す**

Tuner Setup

4. ENTER **⇦ ⇨ で"FM Auto/Mono"にして、ENTERボタンを押す**

FM Auto/Mono

5. ENTER **⇧ ⇩ で"FM Mono"にして、ENTERボタンを押す**

FM Mono

表示部に「○」が点灯します。
FMステレオ放送をステレオで受信するように設定する場合は、"**FM Auto**"にします。

☑ **メモ**

- 放送されているFMがモノラル音声か、電波の弱い場合は、ステレオ放送になりません。

AM放送の雑音を減らす

1. FM/AM **FM/AMボタンを押して、AM放送を受信する**

放送局の受信のしかたは、53ページを参照してください。

2. SETUP **SETUP ボタンを押す**

3. ENTER **⇦ ⇨ で"Tuner Setup"にして、ENTERボタンを押す**

Tuner Setup

4. ENTER **⇦ ⇨ で"Noise Cut"にして、ENTERボタンを押す**

Noise Cut

5. ENTER **⇧ ⇩ で設定を選んで、ENTERボタンを押す**

"N.Cut Mode1"から**"N.Cut Mode3"**まで選ぶことができます。
雑音が最も小さい設定を選んでください。

放送局を記憶させる

受信した放送局を記憶させる

FM放送とAM放送を合わせて30局まで、ステーション（記憶番号）に記憶させることができます。

1. FM/AM **FM/AM ボタンを押して、記憶させたい放送局を受信する**

放送局の受信のしかたは、53ページを参照してください。

2. SETUP **SETUPボタンを押す**

3. ENTER **⇦ ⇨ で"Tuner Setup"にして、ENTERボタンを押す**

Tuner Setup

4. ENTER **⇦ ⇨ で"ST.Memory"にして、ENTERボタンを押す**

ST.Memory

5. **⇧ ⇩ で、記憶させるステーションを選ぶ**

記憶させるためのステーションは**ST01**〜**ST30**まであります。

ST01 76.00MHz

6. ENTER **ENTER ボタンを押して記憶させる**

☑ メモ

- すでに記憶されているステーションに違う放送局を記憶させると、前の放送局は消去され、新しい放送局がステーションに記憶されます。

記憶させた放送局を呼び出す

各ステーション（記憶番号）に記憶させた放送局を聞くことができます。

1. FM/AM **FM/AMボタンを押す**

ラジオが聞ける状態になります。

2. − ST + **ST＋/－ボタンで、記憶したステーションを選ぶ**

ST01　76.00MHz

リモコンの数字ボタンで呼び出す

記憶させた放送局を数字ボタンでダイレクトに選ぶことができます。

1. FM/AM **FM/AMボタンを押す**

ラジオが聞ける状態になります。

2. 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 **ステーション番号と同じ数字ボタンを押す**

（例）　ステーション2：　2

ステーション18：　1　8

3. ENTER **ENTERボタンを押す**

数字ボタンを押して2秒以上待つと、ENTERボタンを押さなくても選ぶことができます。

第８章：
他機器の接続

本機側面や背面の端子部に接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には、必ず電源コードを抜いてください。
また、電源コードはすべての接続が終わってから壁のコンセントに接続してください。

- 接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

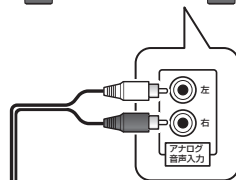
外部音声機器の接続

アナログオーディオ機器の接続

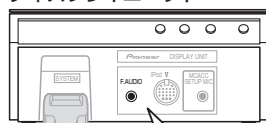
アナログ音声出力端子のあるオーディオ機器を本機に接続して、その音声をサラウンドで楽しむことができます。

本機側面の**アナログ音声入力端子**と、接続したいオーディオ機器の音声出力端子とを、市販のオーディオコード（ピンプラグ付接続コード）で接続します。

☑ **メモ**

- ビデオデッキなど映像出力端子がある機器の場合は、映像信号をテレビに直接接続してください。

メモリーオーディオプレーヤーなどを気軽に接続して本機で聴くこともできます。

ディスプレイユニット背面の**F.AUDIO端子**と、接続したいオーディオ機器の音声出力端子とを、市販のステレオミニプラグケーブルで接続します。

- **F.AUDIO 端子**にケーブルを接続すると、自動的に本機の入力が Front Audio In に切り換わります。

デジタルオーディオ機器の接続

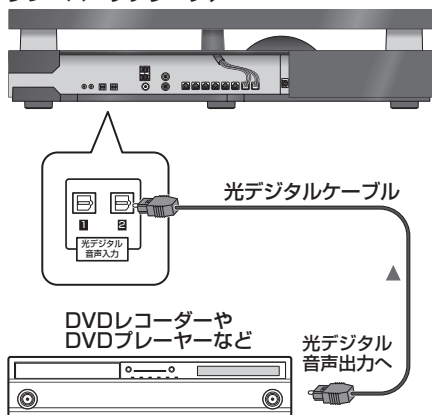
本機には、光デジタル音声入力端子が２系統あります。DVDレコーダー、DVDプレーヤー、BS/CSデジタルチューナーなどの機器と接続して、映画などを5.1チャンネルサラウンドで楽しむことができます。

- 外部機器と HDMI ケーブルで接続している場合は、光デジタルケーブルによる接続は必要ありません。

接続したい機器の光デジタル音声出力端子と、本機の光デジタル音声入力端子を付属(または市販)の光デジタルケーブルで接続します。

- 光デジタルケーブルを使用するときは、ケーブル先端のカバーを外してください。

☑ メモ

- 映像出力端子がある機器の場合は、映像信号をテレビに直接接続してください。
- 接続した機器にデジタル音声出力に関する設定がある場合があります。詳しくは、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

iPodの接続

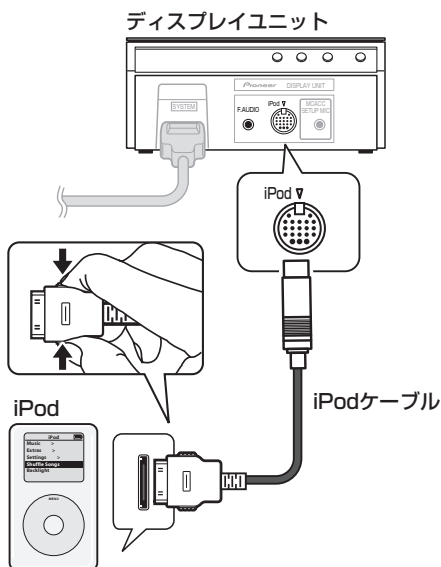
付属の iPod ケーブルを使用して、iPod の曲を本機で聴くことができます。

ディスプレイユニット背面の**iPod**端子と、お使いのiPodとを、付属のiPodケーブルで接続します。

- **iPod** 端子にケーブルを接続すると、自動的に本機の入力が **iPod** に切り換わります。
- 曲の再生などの操作は、iPod 本体で行ってください。

☑ メモ

- iPodの機種によっては、本機と接続できないものがあります。

iPod は、米国およびその他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

他機器の音声を本機で聞くには

他機器の音声を本機で聞くときは、リモコンで本機の入力を切り換えます。一部のパイオニア製の機器を接続した場合は、本機のリモコンで操作することができます。

1. RECEIVER **本機の電源がオフの場合は、⏻RECEIVER ボタンを押して電源をオンにする**

同様に、他機器の電源もオンにしてください。

2. LINE **LINEボタンを繰り返し押して、入力を選ぶ**

ボタンを押すたびに、以下のように入力が切り換わります。

Digital 1 → Digital 2 → Analog → iPod → Front Audio In → Digital 1

リモコンの液晶操作画面が、機器の選択画面に切り換わります。

3. 接続している機器の種類を選ぶ

下図の液晶操作画面で機器の種類を選ぶと、リモコンが選択した機器の操作モードに切り換わります。

LINE
HDD/DVR BD DVD
TV
EXIT

- 液晶操作画面に操作したい機器の種類が表示されなかったり、お使いの機器がパイオニア製以外の場合は、リモコンのRCV ボタンを押して RECEIVER モードに切り換えておいてください。

4. 必要に応じて、他機器の再生操作をする

HDMI 伝送で高品位な音声と映像を再生する

HDMI とは High-Definition Multimedia Interface の略です。パソコンディスプレイなどで使われている DVI(Digital Video Interface) 端子を拡張した、次世代テレビ向けのデジタルインターフェースの規格です。HDMI 対応機器と HDMI 対応のプラズマテレビなどを接続することで、圧縮されていないデジタル映像と音声（ ドルビーデジタル（ドルビーデジタルプラスやドルビー TrueHD も含む)、DTS（DTS-HD Master Audio も含む)、MPEG-2 AAC、SACDまたはリニア PCM) を 1 本のケーブルで伝送できます。接続には HDMI ケーブルをお使いください。

- HDMI 対応機器の HDMI 端子の規格がバージョン 1.0 のものでは、DVD オーディオ信号を伝送することはできません。

HDMI 対応機器を接続する

1. HDMI ケーブルで、本機の HDMI IN 1～3端子と、HDMI対応機器のHDMI出力とを接続する

HDMI 対応機器と接続して、本機で再生しているときは、ディスプレイユニットの赤い HDMI インジケーターが点灯します。

2. 同様に、本機の HDMI OUT 端子と、HDMI 対応テレビのHDMI入力端子を接続する

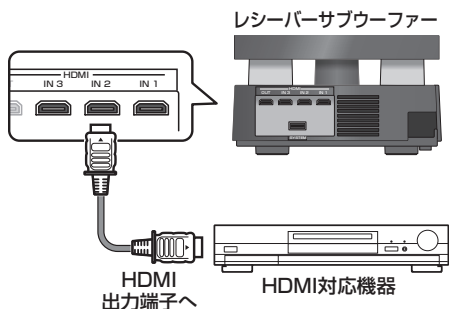
3. HDMI 入力機器を接続したHDMI 1～3 のいずれかのボタンを押して、本機の入力を切り換える。

ディスプレイユニットの INPUT SELECTOR ボタンを繰り返し押して、入力を切り換えることもできます。

レシーバーサブウーファー

HDMI IN 3 IN 2 IN 1

HDMI 出力端子へ

HDMI対応機器

☑ メモ

- テレビから映像が出ない場合は、HDMI 機器やテレビの解像度の設定をご確認ください。
- 本機はSACD、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD、DTS-HD Master Audio信号にも対応していますが、再生機器がそれらのフォーマットのビットストリーム出力に対応している必要があります。

本機はHDMI 機器との接続を目的として設計されています。DVI 機器に接続した場合、DVI 機器によっては正常に動作しない場合があります（HDCP に対応していない DVI 機器（パソコンのディスプレイなど）には接続できません)。本機のHDMI インターフェースは以下の規格に基づいて設計されています。

- High-Definition Multimedia Interface Specification Version 1.3a

HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。

HDMI 設定

HDMI 機器から入力された音声を、本機で出力するか、テレビに出力させるかを選ぶことができます。HDMI 設定を **Through** にすると、本機の機能の多くが使用できなくなります。

- レシーバーサブウーファーを操作するときは、**RCV** ボタンを押してリモコンを **RECEIVER** モードにしてください。

1. SETUP **SETUPボタンを押す**

2. ⇦ ⇨ **で "HDMI Setup" を選んで、ENTER ボタンを押す**

HDMI Setup

3. ⇦ ⇨ **で "HDMI Mode" を選んで、ENTER ボタンを押す**

HDMI Mode

4. ⇧ ⇩ **で、設定内容を選んで、ENTERボタンを押す**

- **AMP**
  HDMI 機器の音声を本機から出力します。
- **Through**
  HDMI 機器の音声をテレビから出力します。このとき、**HDMI THROUGH** インジケーターが点灯します。

☑ **メモ**

- HDMI 対応機器の音声をテレビから出力させたい場合は、HDMI設定を **Through**にしてください。
- HDMII コントロール機能に対応したパイオニア製プラズマテレビと HDMI ケーブルで接続している場合、プラズマテレビのホームメニューでHDMIコントロール設定を「音声をAVシステムから出す」にすると、本機のHDMI設定ができなくなります。
  プラズマテレビの設定については、プラズマテレビの取扱説明書をご覧ください。

HDMI コントロール機能で HDMI 機器を連動動作させる

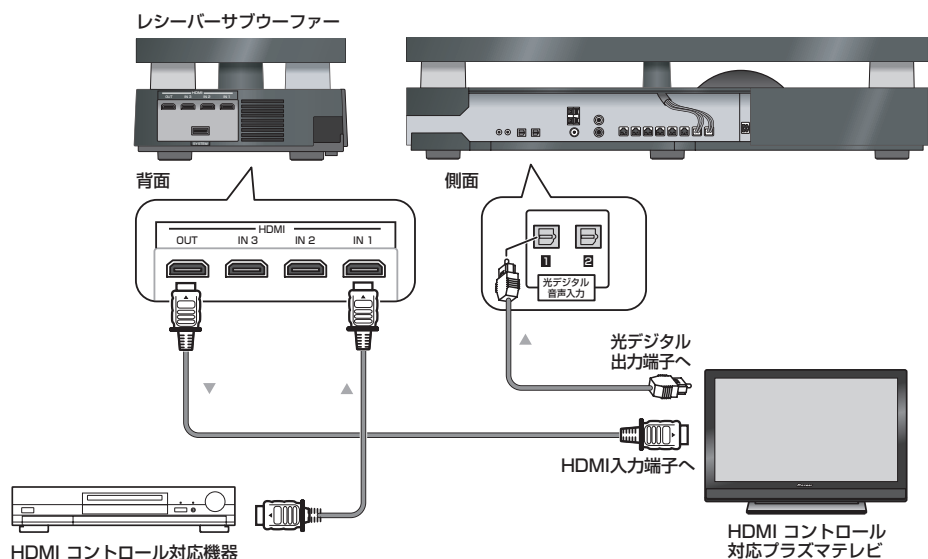
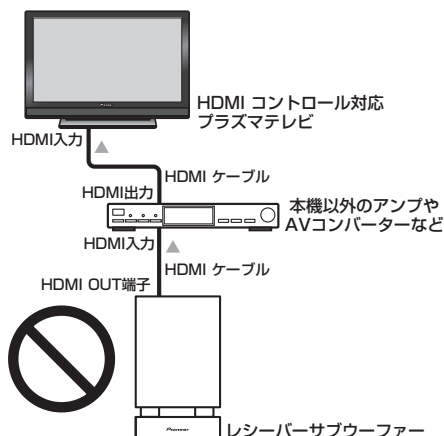
HDMIコントロール機能に対応したパイオニア製プラズマテレビやブルーレイディスクプレーヤーなどを、HDMI ケーブルで本機と接続することでこれらの機器との連動動作を実現します。HDMI コントロール機能で連動できる動作について、詳しくは、HDMI コントロール機能対応のパイオニア製プラズマテレビに付属の取扱説明書をご覧ください。

- HDMI コントロール機能に対応していない機器では、ここでの機能を使用することができません。
- パイオニア製ではない機器とは正しく連動動作できないことがあります。
- HDMI コントロールモードやオートディレイ、TV 入力の設定をするときは、**RCV** ボタンを押してリモコンを **RECEIVER** モードにしてください。

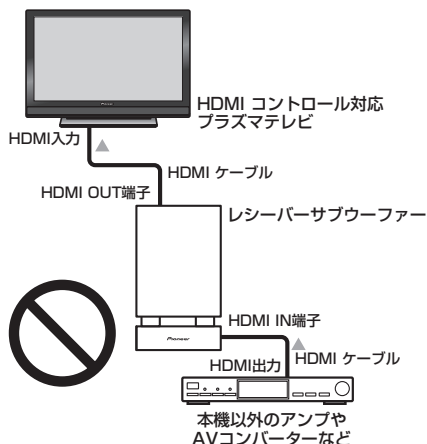
HDMI コントロール機器を接続する

本機にはプラズマテレビの他に、最大 3 台の HDMI ソース機器を接続して連動動作させることができます。接続には HDMI1.3 規格に対応した HDMI ケーブルをご使用ください。HDMI1.3 規格に対応していない HDMI ケーブルでは HDMI コントロール機能が正常に動作しない場合があります。

接続が終わったら、HDMI コントロールモードの設定 (62 ページ) を行ってください。

- 接続するときは、必ずすべての機器の電源コードを抜いてから行ってください。HDMI コントロール対応機器の接続終了後、本機の電源コードをコンセントに差し込むと本機の電源が入ります。この際、HDMI に関する初期化動作を約 15 秒間行います。初期化中は HDMI インジケーターが点滅しますので、点滅が終了してから本機の操作を行ってください。
  なお、HDMI コントロールモードを **Off** にすると、この処理は行われなくなります。
- 本機の HDMI コントロール機能を十分に発揮するために、HDMI 機器は本機に接続してください。HDMI 機器を本機ではなくプラズマテレビに直接接続すると、HDMI コントロール機能が働かないことがあります。

- 本機とプラズマテレビは直接接続してください。本機以外のアンプや AV コンバーター（HDMI スイッチ）などに接続してから本機に接続すると、誤動作の原因となります。

- 本機の HDMI 入力にはソース機器（ブルーレイディスクプレーヤーなど）を直接接続してください。本機以外のアンプや AV コンバーター（HDMI スイッチ）などを接続すると誤動作の原因となります。

HDMI コントロール対応
プラズマテレビ
HDMI入力
HDMI ケーブル
HDMI出力
本機以外のアンプや
AVコンバーターなど
HDMI入力
HDMI ケーブル
HDMI OUT端子
レシーバーサブウーファー

HDMI コントロール対応
プラズマテレビ
HDMI入力
HDMI ケーブル
HDMI OUT端子
レシーバーサブウーファー
HDMI IN端子
HDMI出力
HDMI ケーブル
本機以外のアンプや
AVコンバーターなど

HDMI コントロールモードを設定する

本機の HDMI コントロール機能を有効にする設定を行います。
本機の設定以外にも、本機と接続する HDMI コントロール機能に対応した機器の設定も必要です。詳しくはそれぞれの取扱説明書をご覧ください。

- HDMI コントロール機能対応のパイオニア製プラズマテレビ以外と接続する場合は、Control Off に設定することをお勧めします。

1. SETUP　**SETUPボタンを押す**

2. ENTER　**⇦⇨ で "HDMI Setup" を選んで、ENTER ボタンを押す**

HDMI　Setup

3. ENTER　**⇦⇨ で "HDMI Ctrl" を選んで、ENTER ボタンを押す**

HDMI　Ctrl

4. ENTER　**⇧⇩で、設定内容を選んで、ENTERボタンを押す**

- Control On
  HDMI コントロール機能が有効になります。本機の電源をオフにしても、HDMI コントロール機能に対応した入力機器を再生すれば、その映像と音声を HDMI 出力からテレビに出力します。
- Control Off
  HDMI コントロール機能は無効になり、連動動作しません。本機の電源をオフにすると、接続した入力機器の映像と音声は HDMI 出力されません。

オートディレイの設定

HDMI 接続時に映像と音声のズレを自動的に補正するかどうかを設定します。

1. SETUP **SETUPボタンを押す**

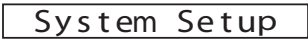
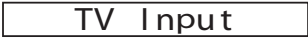
2. ENTER **⇦⇨ で "HDMI Setup" を選んで、ENTER ボタンを押す**

HDMI Setup

3. ENTER **⇦ ⇨ で "Auto Delay" を選んで、ENTER ボタンを押す**

Auto Delay

4. ENTER **⇧ ⇩ で、設定内容を選んで、ENTERボタンを押す**

- A.Delay On
  ズレを自動的に補正します。
- A.Delay Off
  自動補正をしません。

☑ **メモ**

- この機能はHDMIコントロール機能を有効にしているときのみ使用できます。
  自動補正で適切な結果が得られない場合や、きめ細かな調整を行いたい場合は、A.Delay Offに設定して、サウンドディレイの調整(46ページ)を行ってください。

TV 入力の設定

テレビの音声を本機で聴くときは、HDMI ケーブルの他に光デジタルケーブルによる接続が必要です。ここでテレビからの音声入力を設定すると、リモコンの TV ボタンを押したときに、本機の入力が指定した入力に切り換わります。
入力は、Digital 1 または Digital 2 から選びます。

1. SETUP **SETUPボタンを押す**

2. ENTER **⇦⇨ で "System Setup" を選んで、ENTERボタンを押す**

System Setup

3. ENTER **⇦ ⇨ で "TV Input" を選んで、ENTER ボタンを押す**

TV Input

4. ENTER **⇧ ⇩ で、設定内容を選んで、ENTERボタンを押す**

☑ **メモ**

- HDMIコントロール機能を使用するときは、必ずこの設定を行ってください。

HDMI コントロール機能を操作する前に動作確認をする

接続と設定が終了したら、下記の確認を必ず行ってください。

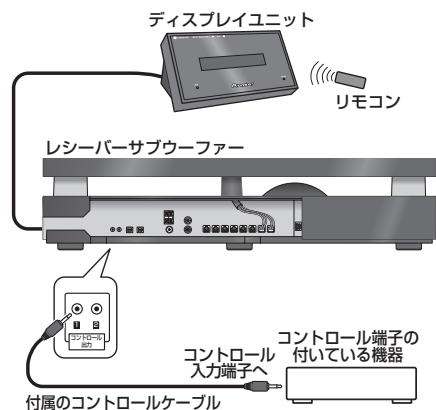
1. **すべての機器をスタンバイ状態にする**
2. **プラズマテレビ以外のすべての機器の電源をオンにする**
3. **プラズマテレビの電源をオンにする**
4. **プラズマテレビの入力を HDMI に切り換える**
5. **本機の入力を、接続した HDMI 入力のいずれかに切り換える**
6. **手順 5 で選んだ HDMI に接続した機器を再生する**

   プラズマテレビに映像が表示されることを確認します。
7. **手順5〜6を繰り返し、すべてのHDMI入力を確認する**

HDMI コントロール機能を使う

プラズマテレビのリモコンで本機の音量調節などの操作ができます。
この機能は基本的にプラズマテレビのメニューで設定します。詳しくは HDMI コントロール機能対応のパイオニア製プラズマテレビの取扱説明書をご覧ください。なお、アンプ連動を解除（プラズマテレビを操作して、音声をプラズマテレビから出力する状態）した場合、本機の電源がオフになることがあります。

コントロール端子の付いている機器と接続する

コントロール端子の付いたパイオニア機器と接続すると、本機のディスプレイユニットにリモコンを向けて接続した機器を操作することができます（システムコントロール）。
これにより、リモコン受光部がない機器やリモコン受光部が信号を受けられない場所に設置した機器も操作することができます。

ディスプレイユニット
リモコン
レシーバーサブウーファー
コントロール端子の付いている機器
コントロール入力端子へ
付属のコントロールケーブル

本機のコントロール出力端子の接続をするときは、本機と接続する機器とを必ずアナログ音声コードまたはHDMIケーブルでも接続してください。光デジタルケーブルの接続だけでは、システムコントロールは正しく動作しません。

☑ **メモ**

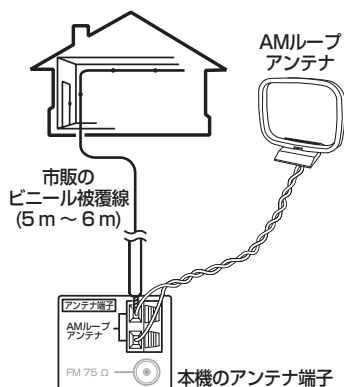
- 接続には付属のコントロールケーブルを使用してください。
- コントロール入力端子にプラグを接続した機器のリモコン受光部は信号を受け付けません。

外部アンテナを接続する

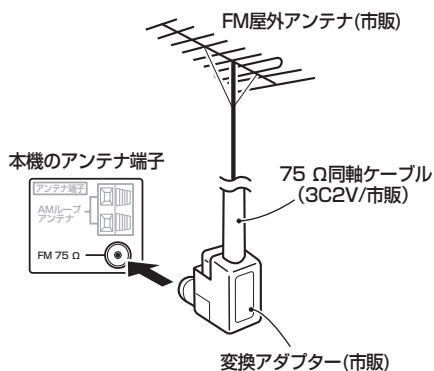
付属のAMループアンテナやFM簡易アンテナでは放送がよく聞こえないときは、市販の外部アンテナを接続してください。

AM 外部アンテナをつなぐ

付属のAMループアンテナを接続したまま、AM外部アンテナ（市販のビニール被覆線）を下図のように接続してください。

AMループアンテナ
市販のビニール被覆線（5 m ～ 6 m）
本機のアンテナ端子

FM 屋外アンテナをつなぐ

市販のFM屋外アンテナを接続するには、市販の同軸ケーブルと変換アダプターを使って、下図のように接続してください。

FM屋外アンテナ(市販)
本機のアンテナ端子
75 Ω同軸ケーブル（3C2V/市販）
変換アダプター(市販)

第９章：
いろいろな機能を使う

スリープタイマー

約60分後に自動的に電源が切れます。ラジオを聞きながら眠ったりするときに便利です。

1. SLEEP

SLEEPボタンを押して、"Sleep On"を選ぶ

Sleep On

2. ENTER

ENTERボタンを押す

スリープタイマーが設定されて「☾」が点灯し、表示部が暗くなります。
途中で取り消す場合は、再度SLEEPボタンを押して"Sleep Off"にします。

☑ **メモ**

- スリープタイマー設定後にSLEEPボタンを押すと、電源が切れるまでのおおよその時間を確認することができます。

Sleep ----

ひと目盛りは、12分を表しています。

表示部の明るさを変える

ディスプレイユニットの表示部の明るさを変えることができます。

1. SETUP

SETUPボタンを押す

2. ENTER

⇦⇨で"System Setup"を選んで、ENTERボタンを押す

System Setup

3. ENTER

⇦ ⇨で"Dimmer"を選んで、ENTERボタンを押す

Dimmer

4. ENTER

⇧⇩で設定を選んで、ENTERボタンを押す

- Dimmer Light

お買い上げ時の表示部の明るさです。スリープタイマーが設定されていると、表示部は暗くなります。

- Dimmer Dark

表示部が暗くなります。

設定した内容をお買い上げ時の状態に戻す

1. RECEIVER

電源をオンにする

電源がオフのときは、⏻RECEIVERボタンを押して、本機の電源をオンにします。

2. **ディスプレイユニットのINPUT SELECTORボタンを押しながら、⏻STANDBY/ONボタンを押す**

電源がオフ(スタンバイモード)になります。

3. RECEIVER

もう一度電源をオンにする

設定した内容がすべてお買い上げ時の状態に戻ります。

☑ **メモ**

- 初期化すると、記憶していたすべてのメモリーが同時に消去されます。初期化するときは十分にご注意ください。

第10章：
その他

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったらチェックしてみてください。ちょっとした操作ミスが故障と思われがちです。また、本機以外の原因も考えられます。接続した機器などもあわせてお調べください。**特にデジタル接続しているときは、デジタル出力の設定を十分にご確認ください。**以下の項目に従って再度点検されても直らないときは、お買い上げの販売店またはお近くのサービスステーションにお問い合わせください。

症状	原因/対策	参照ページ
音が出ない、または特定のスピーカーから音が出ない。	• すべてのコードが完全に接続されていますか？「接続する」を参照して、正しく接続してください。	**18～21ページ**
	• ステレオ再生 2.1ch になっていませんか？ステレオ再生の場合はサラウンドスピーカーからは音が出ません。リスニングモードを切り換えてマルチチャンネル再生 5.1ch にしてください。	**41～44ページ**
	• ミューティング状態になっていませんか？リモコンの**MUTE**ボタンを押してください。	**28ページ**
	• 音量がゼロになっていませんか？ 音量を調整してください。	**28ページ**
	• プレーヤー(入力機器)が対応していないフォーマットのソフトを再生していませんか？プレーヤーの取扱説明書を確認してください。	
	• HDMI 設定が **Through** になっていませんか？本機から音声を出力する場合は**AMP**に切り換えてください。	**60ページ**
	• DVI機器とHDMIケーブルで接続している場合、音声は出力されません。	
	• 本機が対応していないフォーマット(MP3 など)の信号を入力していませんか？本機が対応しているフォーマットはドルビーデジタル、ドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス、DTS、DTS-HD（マスターオーディオ）、DTS-Express、MPEG-2 AAC、リニアPCM、SACD（DSD）です。	
	• 外部機器と光デジタルケーブルまたはHDMIケーブルで接続している場合、外部機器の音声出力またはHDMIの設定を確認してください。	
テストトーンが出ないスピーカーがある。	• スピーカーの接続が外れていませんか？ 確認してください。	**20～21ページ**
テストトーンがまったく出ない。	• スピーカーの接続が外れていませんか？ 確認してください。	**20～21ページ**
	• ミューティング状態になっていませんか？リモコンの**MUTE**ボタンを押してください。	**28ページ**
FM/AM放送が聞こえない、聞き苦しい。	• アンテナは接続されていますか？アンテナを正しく接続してください。	**22～23ページ、65ページ**
	• アンテナの向き、位置は悪くなっていませんか？アンテナの向きや位置を調整してください。	
	• 電気器具（蛍光灯、ドライヤーなど）を使用していませんか？ノイズを発生させる機器の使用をやめてください。	

症状	原因/対策	参照ページ
FMステレオ放送なのにステレオにならない。	• 表示部に「○」が点灯していませんか？"FM Auto/Mono"の設定をFM Autoにしてください。	53ページ
接続したデジタル機器からの音が出ない。	• 正しく接続されているか、もう一度確認してください。 • LINEボタンを繰り返し押して、入力をDigital 1またはDigital 2の接続した端子に切り換えてください。	57ページ
接続したアナログ機器(テレビなど)の音が本機から出ない。	• 正しく接続されているか、もう一度確認してください。 • LINEボタンを繰り返し押して、入力をAnalogに切り換えてください。	56ページ
リモコンが効かない。	• リモコンの電池は消耗していませんか？新しい電池に換えてください。このとき、設定したテレビメーカーコードが消える場合があります。36ページを参照して、もう一度やり直してください。 • 蛍光灯がリモコン受光部の近くにありませんか？蛍光灯をリモコン受光部から離してください。 • リモコン受光部から7 m以内、左右30°以内で、リモコンを本機に向けて操作してください。 • リモコン受光部とリモコンとの間に、信号を遮る障害物がありませんか?障害物を取り除くか、操作する場所を移動してください。 • 本機のコントロール出力端子の接続をするときは、本機と接続する機器とを必ずアナログ音声コードまたはHDMIケーブルでも接続してください。光デジタルケーブルの接続だけでは、システムコントロールは正しく動作しません。	35ページ 26、37ページ 26、37ページ 65ページ
設定した内容が消えてしまった。	• 本機の電源が入っているときに強制的に電源コードを抜く、または停電などが起きると、設定した内容が消えてしまうことがあります。電源コードを抜くときは、必ずディスプレイユニットの⏻STANDBY/ONボタンまたはリモコンの⏻RECEIVERボタンを押して、ディスプレイ表示部の[--Off--]表示が消えてから行ってください。特に他機器のACアウトレットから電源コードを接続しているときはご注意ください。	
動作しない。	• 電源コードが外れていませんか？電源コードを正しく接続してください。	25ページ
電源が入らない、または電源が突然オフになった。 （再び電源を入れたときにエラーメッセージが表示される場合があります。）	• 電源コードを抜かずに、1分後に再びディスプレイユニットの⏻STANDBY/ONボタンまたはリモコンの⏻RECEIVERボタンを押して電源を入れてみてください。 • スピーカーコードがショート（接触）していませんか？スピーカーコードの芯線をしっかりとねじり、もう一度スピーカー端子に接続し直してください。 • レシーバーサブウーファーのまわりに十分なスペースが空いていますか？通風が良くなるように設置をかえてみてください。 • 音量をもう少し小さくしてみてください。 上記の対策を行っても症状が改善されないときは、最寄りの弊社サービスステーションにご連絡ください。	20〜21ページ 5ページ 28ページ

こんな表示が出たときは

ディスプレイユニットにメッセージが表示されたときは、以下の内容を確認してください。サラウンドの自動設定（MCACC）中に表示されるエラーメッセージについては39ページをご覧ください。

表示	意味
192kHz PCM SACD DTS-HD DTS Express Dolby TrueHD Dolby D+	再生している音源に対応できない機能を操作したときに表示します。
No MIC	MCACC セットアップマイクを接続していない状態で**MCACC** ボタンを押したときに表示します。
Muting	消音になっている状態で、**TEST TONE**または**MCACC**ボタンを押したときに表示します。
2ch Only	マルチチャンネル音声再生時に、ステレオ音声のみに有効な機能を操作したときに表示されます。
Exit	各種メニューを表示中に、そのメニューを表示することが禁止されている信号が入力されたときに表示され、通常表示に戻ります。
HDMI Through	HDMI設定が**Through**になっているときに、音量やリスニングモード、音質設定などを行おうとしたときに表示されます。
Can't use	次の操作をした場合に表示されます。 ● サラウンド設定などで操作が禁止されているとき。 ● 音量が51以上のときに、**TEST TONE**ボタンを押した場合。
HDMI C.ERR 1** HDMI C.ERR 2C*	HDMIケーブルの接続を確認してください。もしHDMIケーブルが正しく接続されている場合、本機が故障している可能性があります。お買い上げの販売店、またはお近くのサービスステーションにお問い合わせください。
Over Temp	音量を下げてみてください。電源コードを抜き差しして、電源をオンにし直してもこの表示が出る場合は、本機が故障している可能性があります。お買い上げの販売店、またはお近くのサービスステーションにお問い合わせください。
OC Error*	スピーカーコードがショートしていないか確認してください。もしこの表示が続く場合は、お買い上げの販売店、またはお近くのサービスステーションにお問い合わせください。
***BackUpERR	お買い上げの販売店、またはお近くのサービスステーションにお問い合わせください。

マルチチャンネル再生にならないときは

マルチチャンネル(5.1チャンネル)再生にならないときは､以下を確認してみてください｡案外簡単なミスや勘違いをしていることもあります。

1. **SURRボタンを押して､Autoモードを選ぶ****(42ページ)**

再生している音声に応じたサウンドモードに自動で切り換わります。

2. **テストトーンを出力してみる****(49ページ)**

すべてのスピーカーからテストトーン(ザーという音）が出力されていることを確認してください。テストトーンが出力されないスピーカーがあるときは、接続を確かめてから、もう一度テストトーンを出力してみてください。

3. **5.1ch のリスニングモードを選択する****(41〜44ページ)**

ステレオソースもマルチチャンネルにして再生されます。

☑ **メモ**

- 複数の音声が収録されているDVDディスクの場合、再生している音声によって､ステレオ再生またはマルチチャンネル再生になります。

製品のお手入れについて

- 通常は付属のクリーニングクロスでお手入れしてください。
- 本機は表面保護のためのピアノ用クリーナーを塗布しています。開封時に表面がくすんだりムラになって見える場合があります。その際は柔らかい布で一度全体を水拭きし、そのあと、乾いた布で拭いてください。
- お手入れの際は市販されているピアノ用クリーナー（鏡面ツヤ出し用）をご使用ください。アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると塗装が変色することがありますのでご注意ください。また、化学ぞうきんなどをお使いの場合は化学ぞうきんなどに付属の注意事項をよくお読みください。
- お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

デジタル音声フォーマットについて

ドルビー

DOLBY TRUEHD

ドルビーデジタル

DVDの標準音声タイプのことです。モノラルやステレオで記録されているソフトもあれば、現在主流となっている5.1チャンネルサラウンドで記録されているソフトもあります。ドルビーデジタル(5.1チャンネルサラウンド)で記録されているソフトとは、5つのチャンネル個別にそれぞれのシーンに合った音声が記録されていて、サブウーファーから出力される低音も記録されているソフトのことをいいます。

ドルビープロロジック

2チャンネルサラウンド信号や2チャンネルステレオ信号をマルチチャンネルサラウンドで再生するための技術です。2チャンネルサラウンド信号については圧縮された信号を忠実にデコード（再生）し、2チャンネルステレオ信号については2チャンネル分の信号からセンター、サラウンドチャンネルの信号を創り出します。ただし、この再生方式ではサラウンドチャンネルはモノラルであるため、左右のサラウンドスピーカーからは同じ音声が出力されます。

ドルビープロロジック II

ドルビープロロジックIIは、ドルビープロロジックをさらに改良し、ステレオ音声を5.1チャンネルに拡張して再生するためのマトリックスデコード技術です。ステアリングロジック回路により、全可聴帯域のメイン5チャンネルを創り出します。CDのような通常のステレオ音楽素材に対してもより優れた立体音場効果、包囲感、より明確な定位をもたらし、ドルビーサラウンドエンコードされた素材はディスクリート5.1チャンネルに匹敵する移動感をも実現できます。

■プロロジックとプロロジック II の違い

	プロロジック	プロロジックII
効果的なソース	ドルビーサラウンドエンコード処理されたステレオ音声	すべてのステレオ音声
デコードチャンネル数	4.1チャンネル（サラウンド モノラル）	5.1チャンネル（サラウンド ステレオ）
周波数特性	サラウンド 7 kHz帯域制限	全チャンネル フルバンド

ドルビーデジタルプラス

ドルビーデジタルプラスは、高精細映像放送番組やパッケージメディア向けに開発された次世代音声技術です。
HD DVDの必須音声として、ブルーレイディスクのオプション音声として、それぞれのフォーマットに採用されたこの技術は、将来の放送の要求を満たす高い効率性ときたるべき高精細映像時代に求められる音声の可能性を実現するための機能と柔軟性を結合させたものです。
音声出力については、ディスクリートチャンネル出力によるマルチ チャンネルサウンド出力を行い、従来を越える音質で最大7.1チャンネル*出力します。また、従来のドルビーデジタルデコーダーでは通常のドルビーデジタル信号として出力するため、完全互換性を持っています（この際、処理遅延や音質劣化はありません）。
最大6 Mbpsのビットレート性能で、HD DVDでは3 Mbps、ブルーレイディスクでは1.7 Mbpsが最大規格となります。
ケーブル１本で高精細映像・音声のデジタル接続を可能にするHDMI(バージョン1.3)でサポートされています。
* ドルビーデジタルプラスは、8チャンネル以上のチャンネル数をサポートしていますが、現在HD DVD およびブルーレイディスクそれぞれの規格では、最大音声チャンネル数が8チャンネルに制限されています。

ドルビー TrueHD

ドルビー TrueHD は、次世代高精細光ディスク向けに開発されたロスレス符号化技術です。HD DVDの必須音声として、ブルーレイディスクのオプション音声として、それぞれのフォーマットに採用されたこの技術は、１ビット精度で復元可能な記録・再生を実現し、次世代高精細光ディスクの要である高精細映像を完全なものにします。高精細映像と組み合わせることで､ドルビーTrueHDは高精細映像と最高品位のサウンドで、かつてないホームシアター体験を実現します。
最大18 Mbpsのビットレートで、24 bit/96 kHz、最大８チャンネル*の独立チャンネルを記録することが可能です。また、ドルビー TrueHDはダイアログノーマライゼーションやダイナミックレンジコントロールに対応しています。ダイアログノーマライゼーションは、再生中に他のドルビーデジタル、ドルビー TrueHD プログラムに移行する際も同一のボリュームレベルを維持することが可能で、ダイナミックレンジコントロールでは音量を下げても収録された音源の細部まで聞きとることが可能な(音源の細部を聞くために大音量にする必要がない) 音声再生のカスタマイズです。
ケーブル１本で高精細映像・音声のデジタル接続を可能にするHDMI(バージョン1.3)でサポートされています。
* ドルビー TrueHDは、8チャンネル以上のチャンネル数をサポートしていますが、現在HD DVDおよびブルーレイディスクそれぞれの規格では、最大音声チャンネル数が8チャンネルに制限されています。

DTS

dts-HD™
Master Audio

DTS

デジタルシアターシステムズ（Digital Theater Systems）の略で、低圧縮率と高転送レートがもたらす豊富な情報量により､高音質マルチチャンネルサラウンド再生を実現します｡音楽用にも独自録音による DTS-CDがあります。

DTS 96/24

5.1チャンネルすべてを96 kHz/24 bitの高音質で再生する最新のサラウンドフォーマットで､スタジオのマスター音源のクオリティを踏襲しています。DVDの限られた記録エリアで、高音質/高画質を両立させるために開発されました。
本機は､DTS 96/24対応デコーダーを搭載しているので、既存のDTS 対応のDVD プレーヤーと、DTS 96/24に対応するデコーダー（AVアンプなど）をデジタル接続することで､再生することができます。（専用プレーヤーは必要ありません。）従来のDTSデコーダーでは通常のDTS信号として再生されるため、完全互換性を持っています。

DTS-ES

2000年11月に発表されたサラウンドフォーマットで､｢DTS Extended Surround｣の略称です。従来の5.1チャンネルにサラウンドバック（SB）チャンネルを加えたもので、かつてない音像・定位感をもたらすことが可能になりました。｢DTS-ES ディスクリート6.1｣と｢DTS-ESマトリックス6.1｣の2種類があり､どちらも従来のDTS5.1チャンネルデコーダーとの下位互換性を有しています。

DTS Neo:6

すべての2チャンネルソースを6.1チャンネル化するマトリックスデコード技術です。Cinemaモード/Musicモードがあります。

CINEMA （Neo6: CINEMA）
6.1チャンネル化します。映画再生に適したモードで、2チャンネルでも映画館特有の移動感などをお楽しみいただけます。

MUSIC （Neo6: MUSIC）
6.1チャンネル化します。フロントからは原音をそのまま再生するため音質の変化がなく、音楽再生に適しています。また、センター /サラウンド/サラウンドバックチャンネルの音声が音場にナチュラルな広がり感を加えます。

DTS-HD Master Audio

DTS-HD Master Audio（DTS-HDマスターオーディオ）は、プロフェッショナルスタジオで作られるマスター音源を、その品質のままに伝送することが可能なフォーマットです。DTS-HD Master Audioが伝送する音声は可変データ転送レートで、ブルーレイディスクフォーマットにおいては毎秒最高24.5 Mbps、HD DVDフォーマットにおいては18.0 Mbpsであり、スタンダードDVDよりも格段に高い転送レートを持っています。この高いデータ転送レートによって、7.1チャンネルの音声すべてを96 kHz/ 24 bitの高音質で伝送することを可能にしています。

DTS-EXPRESS

DTS-EXPRESSは最大5.1チャンネルまでのロービットレート技術です。DTS-EXPRESSが伝送する音声は固定データ転送方式で、24 kbps～256 kbpsまでをサポートしています。HD DVDディスクのSUB AUDIOとして、ブルーレイディスクのオプション音声として収録される他、放送コンテンツやメモリーオーディオコンテンツへの応用が想定されています。本機はPRIMARY AUDIOとして伝送されてきた場合にのみ再生が可能です。

MPEG-2 AAC

MPEG-2オーディオの標準方式のひとつで、BSデジタル放送や地上デジタル放送で採用されている音声符号化規格です。低ビットレートでかつ高音質を確保できる点が特長で、番組内容によりマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。以下が米国パテントナンバーです。

08/937,950	5,481,614
5848391	5,592,584
5,291,557	5,781,888
5,451,954	08/039,478
5 400 433	08/211,547
5,222,189	5,703,999
5,357,594	08/557,046
5 752 225	08/894,844
5,394,473	5,299,238
5,583,962	5,299,239
5,274,740	5,299,240
5,633,981	5,197,087
5 297 236	5,490,170
4,914,701	5,264,846
5,235,671	5,268,685
07/640,550	5,375,189
5,579,430	5,581,654
08/678,666	05-183,988
98/03037	5,548,574
97/02875	08/506,729
97/02874	08/576,495
98/03036	5,717,821
5,227,788	08/392,756
5,285,498	

保証とアフターサービス

保証書（別添）について

保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から1年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

ステレオの補修用性能部品の最低保有期間は製造打ち切り後8年です。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談

お買い上げの販売店へご依頼ください。また、ご転居されたりご贈答品などでお買い求めの販売店に修理のご依頼ができない場合は、修理受付センターにご相談ください。
所在地、電話番号は79ページの「ご相談窓口のご案内・修理窓口のご案内」をご覧ください。

修理を依頼されるとき

67～69ページに従って調べていただき、なお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- ご住所
- お名前
- お電話番号
- 製品名：5.1 chサラウンドシステム
- 型番：HTP-LX70
- お買い上げ日
- 故障の状況（できるだけ詳しく）
- 訪問ご希望日
- ご自宅までの道順と目標（建物、公園など）

■ 保証期間中は：

修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

■ 保証期間が過ぎているときは：

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

■ お願い：

修理のために本機をお持ち込みいただく際は、部分的な故障と思われる場合でもシステム全体での動作確認が必要となるため、全機器をお持ち込み願います。

愛情点検

長年ご使用のオーディオ製品の点検をお勧めいたします。
こんな症状はありませんか？

- 電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。
- 電源コードにさけめやひび割れがある。
- 電気が入ったり切れたりする。
- 本体から異常な音、熱、においがする。

↓

すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜いて、故障や事故防止のため電気店またはお近くのパイオニアサービスステーションに点検(有料)をご依頼ください。

仕様

レシーバーサブウーファー部 (SX-LX70SW)

■ アンプ部

実用最大出力（JEITA）
フロント (L/R)
.... 100 W（50 W＋50 W）
（1 kHz、10 %、8 Ω）
デュアルセンター (CL/CR)
.... 100 W（50 W＋50 W）
（1 kHz、10 %、8 Ω）
サラウンド (L/R)
.... 100 W（50 W＋50 W）
（1 kHz、10 %、8 Ω）
ダブルサブウーファー（2 ch）
.... 100 W（50 W＋50 W）
（100 Hz、10 %、8 Ω）

■ チューナー部

FM チューナー部
受信周波数 ....76.0 MHz ～ 90.0 MHz
アンテナ ....75 Ω 不平衡型
AM チューナー部
受信周波数 ....522 kHz ～ 1 629 kHz
アンテナ .... ループアンテナ

■ サブウーファー部

型式 .... バスレフ式フロア型
防磁設計（JEITA）
使用スピーカー
ウーファー ....18 cm（コーン型）x2
インピーダンス ....8 Ω
再生周波数帯域 ....30 Hz ～ 500 Hz
最大入力................................. 50 W x2（JEITA）

■ 入出力端子

レシーバーサブウーファー部
HDMI 端子
入力.. 19 ピン x3
出力................... 19 ピン (5 V、100 mA) x1
システムコネクター ....26 ピン
音声入力............光デジタル（角型光ジャック）x2
アナログ（RCA 端子）x1

ディスプレイユニット部
システムコネクター ....26 ピン
音声入力.........................ステレオミニジャック x1
MCACC セットアップマイク用入力端子
.... ミニジャック x1
iPod 端子 .... 20 ピン（12 V、420 mA）x1

■ 電源部

電源電圧 .... AC100 V、50 Hz/60 Hz
消費電力 .... 69 W
スタンバイ消費電力
................0.27 W（HDMI コントロール オン）
0.15 W（HDMI コントロール オフ）

■ その他

レシーバーサブウーファー部
外形寸法 ...... 245 mm X 409 mm X 600 mm
（幅）X（高さ）X（奥行）
質量 .... 17.8 kg
ディスプレイユニット部
外形寸法 .... 168 mm X 74 mm X 88 mm
（幅）X（高さ）X（奥行）
質量 ....0.35 kg

許容動作温度............................. ＋5 ℃～＋35 ℃
許容動作湿度.......5 %～ 85 %(結露のないこと)

サテライトスピーカー部 (SSP-LX70ST)

フロント / センタースピーカー
型式 .... 密閉式ブックシェルフ型
防磁設計（JEITA）
使用スピーカー................5.2 cm（コーン型）x3
インピーダンス
フロント.. 8 Ω
センター.. 8 Ω
再生周波数帯域...............200 Hz ～ 20 000 Hz
最大入力
フロント...................................50 W（JEITA）
センター...................................50 W（JEITA）
外形寸法
.... 122.5 mm X 89.5 mm X 104 mm
（幅）X（高さ）X（奥行）
質量 .... 0.5 kg

サラウンドスピーカー
型式 .... 密閉式ブックシェルフ型
防磁設計（JEITA）
使用スピーカー................5.2 cm（コーン型）x2
インピーダンス.. 8 Ω
再生周波数帯域...............200 Hz ～ 20 000 Hz
最大入力 ....50 W（JEITA）
外形寸法
.... 122.5 mm X 89.5 mm X 104 mm
（幅）X（高さ）X（奥行）
質量 ....0.44 kg

付属品

■ アクセサリーボックス部

リモコン.. 1
AA/LR6 単３形アルカリ乾電池......................... 4
ディスプレイユニット 1
ディスプレイケーブル（3 m）............................. 1
電源コード（1.5 m）.. 1
AM ループアンテナ 1
FM 簡易アンテナ.. 1
HDMI ケーブル (3 m) 1
光デジタルケーブル（3 m）.................................. 1
コントロールケーブル (3 m)................................. 1
iPod ケーブル（1.5 m）....................................... 1
MCACC セットアップ用マイク 1
保証書
取扱説明書

■ レシーバーサブウーファー部

クリーニングクロス 1

■ サテライトスピーカー部

スピーカーコード
（4 m・フロント / センタースピーカー用）..... 4
（10 m ・サラウンドスピーカー用）................ 2
スピーカーベース... 4
ネジ 4
滑り止めパッド... 16

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

本機は一般家庭用機器として作られたものです。一般家庭用以外（たとえば、飲食店等での営業用の長時間使用、車両、船舶への搭載使用）で使用し、故障した場合は、保証期間内でも有償修理を承ります。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所へのおもいやりを十分にいたしましょう。ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。
特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には気を配りましょう。近所へ音がもれないように窓を閉めたり、ヘッドホンで聴くのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

音のエチケット

サービス拠点のご案内

サービス拠点への電話は、修理受付センターでお受けします。（沖縄県の方は沖縄サービスステーション）
また、認定店は不在の場合もございますので、持ち込みをご希望のお客様は修理受付センターにご確認ください。

●北海道地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆札幌サービスセンター	FAX 011-611-5694	〒064-0822	札幌市中央区北2条西20-1-3　クワザワビル
旭川サービス認定店	FAX 0166-55-7207	〒070-0831	旭川市旭町1条1丁目438-89
帯広サービス認定店	FAX 0155-23-7757	〒080-0015	帯広市西5条南28丁目1-1
函館サービス認定店	FAX 0138-40-6473	〒041-0811	函館市富岡町2-18-7

●東北地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆仙台サービスセンター	FAX 022-375-4996	〒981-3121	仙台市泉区上谷刈6-10-26
山形サービス認定店	FAX 023-615-1627	〒990-0023	山形市松波1-8-17
郡山サービス認定店	FAX 024-991-7466	〒963-8861	郡山市鶴見坦1-9-25　クレールアヴェニュー伊藤第2ビル1F D号
盛岡サービス認定店	FAX 019-659-1895	〒020-0051	盛岡市下太田下川原153-1
青森サービス認定店	FAX 017-735-2438	〒030-0821	青森市勝田2-16-10
八戸サービス認定店	FAX 0178-44-3351	〒031-0802	八戸市小中野3-16-8
秋田サービス認定店	FAX 018-869-7401	〒010-0802	秋田市外旭川字梶の目345-1

●東京都内

受付　月～土　9:30～18:00（日・祝・弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
世田谷サービスステーション	FAX 03-3419-4234	〒155-0032	世田谷区代沢4-25-9
北東京サービスステーション	FAX 03-3944-7800	〒170-0002	豊島区巣鴨1-9-4　第三久保ビル1F
多摩サービスステーション	FAX 042-524-5947	〒190-0003	立川市栄町4-18-1　エクセル立川1F

●関東・甲信越地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆千葉サービスセンター	FAX 043-207-2555	〒263-0014	千葉市稲毛区作草部町1369-1　椎の実ハイツ1F
松戸サービス認定店	FAX 047-340-5052	〒270-0021	松戸市小金原4-9-23
水戸サービス認定店	FAX 029-248-1306	〒310-0844	水戸市住吉町307-4
つくばサービス認定店	FAX 0298-58-1369	〒305-0045	つくば市梅園2-2-6
☆埼玉サービスセンター	FAX 048-651-8030	〒331-0812	さいたま市北区宮原町1-310-1
川越サービス認定店	FAX 049-233-6581	〒350-0804	川越市下広谷1128-11
宇都宮サービス認定店	FAX 028-657-5882	〒321-0912	宇都宮市石井町3373-1
群馬サービス認定店	FAX 0270-22-1859	〒372-0801	伊勢崎市宮子町1191-17　パサージュ808伊勢崎101号
新潟サービス認定店	FAX 025-374-5756	〒950-0982	新潟市中央区堀之内南1-20-11
佐渡サービス指定店　横山電機商会	FAX 0259-63-3400	〒952-1209	佐渡市金井町千種1158-1
☆神奈川サービスセンター	FAX 045-943-3788	〒224-0037	横浜市都筑区茅ヶ崎南2-18-1　ベルデユール茅ヶ崎
横浜サービス認定店	FAX 045-348-8661	〒240-0043	横浜市保土ヶ谷区坂本町250
神奈川西サービス認定店	FAX 046-231-1209	〒243-0422	海老名市中新田4-10-53　中山ビル1F
三宅島サービス指定店　勝見電機	FAX 04994-6-1246	〒100-1211	三宅村大字坪田
松本サービス認定店	FAX 0263-48-0575	〒390-0852	松本市大字島立180-5　パイオニア松本拠点1F
長野サービス認定店	FAX 026-229-5250	〒380-0935	長野市中御所1-24
甲府サービス認定店	FAX 055-228-8003	〒400-0035	甲府市飯田4-9-14

●中部地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆名古屋サービスセンター	FAX 052-532-1148	〒451-0063	名古屋市西区押切2-8-18
岡崎サービス認定店	FAX 0564-33-7080	〒444-0931	岡崎市大和町字荒田36-1　大和ビレッジB-1
津サービス認定店	FAX 059-213-6712	〒514-0821	津市垂水522-5
岐阜サービス認定店	FAX 058-274-5256	〒500-8356	岐阜市六条江東1-1-3
静岡サービス認定店	FAX 054-236-4063	〒422-8034	静岡市駿河区高松1-17-17
沼津サービス認定店	FAX 055-967-8455	〒410-0876	沼津市北今沢12-7
浜松サービス認定店	FAX 053-422-1401	〒435-0042	浜松市東区篠ヶ瀬町415　ビラモデルナ5号
金沢サービス認定店	FAX 076-240-0550	〒920-0362	金沢市古府3-60-1　K2ビル1F
富山サービス認定店	FAX 076-425-3027	〒939-8211	富山市二口町1-7-1
福井サービス認定店	FAX 0776-27-1768	〒910-0001	福井市大願寺3-5-9

●関西地区			受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く） ☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）
☆大阪サービスセンター	FAX　06-6310-9120	〒564-0052	吹田市広芝町5-8
大阪南サービス認定店	FAX　0722-75-2625	〒593-8322	堺市西区津久野町1-8-15　ローズマンション1F
神戸サービス認定店	FAX　078-265-0832	〒651-0093	神戸市中央区二宮町1丁目10-1　ローレル三宮ノースアベニュー1F
姫路サービス認定店	FAX　0792-51-2656	〒671-0224	姫路市別所町佐土1-126
和歌山サービス認定店	FAX　0734-46-3026	〒641-0021	和歌山市和歌浦東3-1-25
京都サービス認定店	FAX　075-352-2588	〒600-8322	京都市下京区西洞院通五条東南角小柳町513-2　五条久保田ビル1F
奈良サービス認定店	FAX　0742-36-8713	〒630-8132	奈良市大森西町21-26
福知山サービス認定店	FAX　0773-24-5375	〒620-0055	福知山市篠尾新町2-74　カマハチマンション

●中国・四国地区			受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く） ☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）
☆広島サービスセンター	FAX　082-248-9939	〒730-0041	広島市中区小町2-30　第二有楽ビル1F
岡山サービス認定店	FAX　086-244-8748	〒700-0975	岡山市今8-15-21
松江サービス認定店	FAX　0852-22-7779	〒690-0017	松江市西津田4-5-40　（有）テクピット内
福山サービス認定店	FAX　0849-31-2791	〒720-0815	福山市野上町3-12-9
鳥取サービス認定店	FAX　0857-28-8011	〒680-0934	鳥取市徳尾422-2
徳山サービス認定店	FAX　0834-33-5759	〒745-0006	周南市花畠町3-11　森広事務所1F
高松サービスステーション	FAX　087-861-4841	〒760-0078	高松市今里町1-16-1
徳島サービス認定店	FAX　088-669-6076	〒770-8023	徳島市勝占町中須92-1　大松ジョリカ地下1階103号
高知サービス認定店	FAX　088-802-3321	〒780-0051	高知市愛宕町3-12-13　晃栄ビル1F
松山サービス認定店	FAX　089-911-5608	〒791-8013	松山市山越5-12-8

●九州地区			受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く） ☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）
☆福岡サービスセンター	FAX　092-412-7460	〒812-0016	福岡市博多区博多駅南2-12-3
北九州サービス認定店	FAX　093-941-8354	〒802-0044	北九州市小倉北区熊本1丁目9-4　植田ビル1F
博多サービス認定店	FAX　092-461-1643	〒812-0006	福岡市博多区上牟田2-6-7
長崎サービス認定店	FAX　095-849-4606	〒852-8145	長崎市昭和1丁目12-10　クリスタルハイツ平野
熊本サービス認定店	FAX　096-331-3323	〒862-0918	熊本市花立5丁目14-17
大分サービス認定店	FAX　097-551-2049	〒870-0921	大分市萩原3-23-15　日商ビル101
鹿児島サービス認定店	FAX　099-201-3803	〒890-0046	鹿児島市西田3-8-24　サニーサイド21 1F
宮崎サービス認定店	FAX　0985-27-3136	〒880-0821	宮崎市浮城町98-1

●沖縄県			受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
沖縄サービスステーション	TEL　098-879-1910 FAX　098-879-1352	〒901-2113	浦添市大平2-2-6　ひろえハイツ102

平成20年2月現在　　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。

<各窓口へのお問い合わせの時のご注意>
「0120」で始まる フリーコールおよび フリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからは、ご使用になれません。
また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ご相談窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口

● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーコール）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～17:00（弊社休業日は除く）

●家庭用オーディオ/ビジュアル商品　■ 0120−944−222　■一般電話　03−5496−2986

■ファックス　03−3490−5718

■インターネットホームページ　http://pioneer.jp/support/
※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など

修理窓口のご案内

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、①型名②ご購入日③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

修理についてのご相談窓口

● お買い求めの販売店に修理の依頼が出来ない場合

修理受付センター

受付時間　月曜～金曜9:30～19:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

■電話　0120−5−81028（コールパイオニア）　■一般電話　03−5496−2023

■ファックス　0120−5−81029

■インターネットホームページ　http://pioneer.jp/support/repair.html
※インターネットによる修理受付対象商品は、家庭用オーディオ/ビジュアル商品に限ります

沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■一般電話　098−879−1910

■ファックス　098−879−1352

部品のご購入についてのご相談窓口

● 部品（付属品、リモコン、取扱説明書など）のご購入について

部品受注センター

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

■電話　0120−5−81095　■一般電話　0538−43−1161

■ファックス　0120−5−81096

平成20年2月現在　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。　VOL.027

インターネットによるお客様登録のお願い
http://pioneer.jp/support/

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。弊社では、お買い上げいただいたお客様に「お客様登録」をお願いしています。左記アドレスからご登録いただくと、ご使用の製品についての重要なお知らせなどをお届けいたします。なお、左記アドレスは、困ったときのよくある質問や各種お問い合わせ先の案内、カタログや取扱説明書の閲覧など、お客様のお役に立てるサービスの提供を目的としたページです。

パイオニア株式会社
〒153-8654 東京都目黒区目黒１丁目４番１号

<ARA7248-C>